

# 物性研だより

第28卷  
第1号

1988年5月

## 目 次

○ どうぞ是非お立ち寄り下さい .....	生嶋 明 .....	1
物性研究所談話会 .....		5
物性研ニュース .....		7
○ 「極限の世界」科学技術庁長官賞、日本産業映画・ビデオ大賞受賞 .....		7
○ 共同利用の改定 .....		8
○ 共同利用の改定にあたって .....	村田 好正 .....	12
○ 東京大学物性研究所 助教授（又は教授）公募 .....		14
○ 東京大学物性研究所 助手公募 .....		16
○ 人事異動 .....		18
○ 昭和63年度 物性研究所協議会委員名簿 .....		22
○ 昭和63年度 共同利用施設専門委員会委員名簿 .....		23
○ 昭和63年度 軌道放射物性研究施設運営委員会委員名簿 .....		24
○ 昭和63年度 外来研究員等委員会委員名簿 .....		24
○ 昭和63年度 人事選考協議会委員名簿 .....		25
○ 昭和63年度 前期短期研究会一覧 .....		25
○ 昭和63年度 前期外来研究員一覧 .....		26
○ テクニカル・レポート 新刊リスト .....		54
○ 昭和63年度 後期共同利用の公募について .....		59

編集後記

東京大学物性研究所

ISSN 0385-9843

## どうぞ是非お立ち寄り下さい

HOYA(株)材料研究所

生嶋 明

時間の経つのは本当に速いもので、私が物性研究所を辞めさせて頂いてからもう9ヶ月余りになりました。編集委員の方々からこの原稿のご依頼を受けて、近況をご報告することも含めて、書きたいことがずい分有るようにも思いますが、しかし、人間それ程変わるものでもありませんので、気軽にお読み下さればと考えて筆をとりました。

☆

当研究所は朝8時30分に始業します。私自身も、タイムカードを押すわけではありませんが、それより少し早めに出勤する必要がいろいろと有るものですから、毎日7時台の南武線に揺られて立川まで出ます。毎朝顔を合わせるのは、東芝、日電などの工場に出勤するいわゆるブルーカラーの人達で、中には夜勤明けで一杯ひっかけて来たような人達もいて、都心へサラリーマン、OLを運ぶ電車とは全く雰囲気が違います。初めは出勤時間が早いのに慣れず、初めの2週間ほどはちょっと時差ボケのような状態になりました。

☆

大学から企業の研究所に移ったことについて、本当に多くの方々からいろいろとお便りをいただきました。そのほとんどは、私のような者が一体全体、企業でつとまるのかと云うご心配を含んだ励ましのお言葉で、中には御自身の物理に対する信念を吐露されて、企業の研究でも物理の基礎に立ったものが結局はモノになる筈であると云って下さった方もあり、これらの皆様のすべてに私は心から感謝しています。

この時に気付いたのですが、国内外で reaction に少しの差がありました。海外の友人からは、中等しく「Congratulations for your new job!」から始まって、「お前さんがよく考えて決めた事だろうから、今までとは少し勝手も違うだろうけれども頑張ってごらん」という辺りが返って来ました。一方、国内からは極く少数ではありましたけれど、「非常に変わった事をしたね」とか、「大学教授の席を棒に振って」とか、さらには「損をしたと思わないか」などなど、私として、理解は出来ましたが、やはりちょっとビックリしたようなこともありました。その後、当方の必要もあり、いろいろな機会にお会いする新聞社の方々などからもその種のことを時折聞きます。

大学の先生の社会的地位が高いのは、それ自身は大変に結構なことです。しかし、大学の名前にも何か実力とは別の次元の特別な序列が付いて、むしろそれが先行する判断になっているとすれば、それはあるいは日本にかなり特有な一種の「ブランド指向」なのではないか。私はこの頃そんな風に考えています。



当然のことですが、大学と企業との差についてしばしば意見を求められることがあります。これを感じて云うのは困難ですが、この9ヶ月ばかりの僅かな経験を申し上げてみましょう。

まず第一には、やはりお金についての哲学が違うことでしょうか。就任早々、10月からの新会計年度のための予算会議に出席することになりました。時間をかけた議論の末に一年間の計画と予算が決まったそのあとで、研究所の運営にもっとも関心の深い専務取締役がこう云ったのです。「生鳴さん、この予算は今迄のように文部省からトットて来たもののように考えてもらっては困りますよ。このお金はあなたにお預けしたもので、利益を産む元手と考えて下さいね」。

これは、云われるまでもなく実は当たり前のことであります。それに、私は物性研にいたときにも、予算が下されたとは思いましたが、それに見合うものが無くても良いなどと思ったことはありません。しかし、改めてこんな風に云われて見ると、なるほど会社というところは input と output とがより直接的に連結していて、その意味で厳しいものだなあと今さらのように感じた次第です。つまり、いま仮りに人件費を含めて1研究員に年間1000万円の費用が掛かるとすれば、その人を5年間あるテーマに注入しておくことはそれに5000万円の投資をしたことになる。そこで利益率をもし10%とすれば、これはいざれは5億円以上の売上げを上げる製品になって出て来ることを意味しているわけです。これが先のトップの発言の意味するところなのでしょう。

もちろん研究所でやっていることは研究なのですから、これほど直結した計算がいつも成立するわけにも行きません。それに、いつもこのように今日や明日の問題だけを考えていたら、企業内でも研究所としての存在理由は無くなってしまうおそれがあります。しかし、やはり明らかな事の一つは、現象が物理として面白いと云うだけでは、それを追及するテーマをキープするのになかなかの議論を引き起こすということです。一方、短期間に製品になるような“研究”ばかりをしていては、いわば中央研究所としての R & D (Research & Development) としてはまずいことになります。この辺りが今の私にとって、大きな課題の一つになっています。



上に申し上げたことと全く同じ意味で、大学でやるべき研究、あるいは大学でしか出来ないが故に大切にしていただきたい研究が有ることを痛感しています。それは、やはり物理として学問として心底面白いこと。当方は何の役に立つか分からぬけれど、学問として強烈に価値のあると思える研究でしょう。少なくとも日本では、よほどの大企業でない限り、かなりの人と費用を投じて純学問的な Research をやって行くのはまだ難しいように見えます。他に比べて市場での優位性を創り出す必要から、そこに関連する基礎研究をやると云うのが普通ではないかと思います。だから、大学でこそ本当に物理として大事なこと、大事なところを暖めて大きく育てるべきだと思うのです。

日本の最前線を歩んでいらっしゃる物性研の方々にこのような事を申し上げるのは、あるいは不必

要で失礼なことかも知れません。ただ、(これもご存知のことでしょうが)少し前から企業では CI (Corporation Identity) の確立と推進とか呼ばれていました。その精神は、その Corporation の存在意義、ユニークさ、優位性と云ったものを際立たせようというところにあります。それならば、物性研の CI は? 一かつての芳田所長が極限物性部門を柱として物性研を改組なさったのも、結局はこの為だったのでしょうか。だのに、決して強烈な影響力を外に放射しているとは云い難いところがごく一部分ながら見えるのは、本当にもったいないことではないでしょうか。

企業について大学人一部の方々が持ついらっしゃるイメージで、実情と少しちがうところが少なくとも 2 つあるように思えます(白状しますと、以前は私自身も全くその通りでした)。一つは企業にはお金が有るということ、もう一つは企業の研究者の質が大学より低いということです。

中に入って見ますと、確かに企業はある種の外面を非常に大事に考えますので、外からはとても裕福に見えるかも知れません。しかし、一度使った封筒の表に紙を貼って社内便に何回も使うとか、あるいはそれに類する事は幾つもやっているのです。そう云えば、大分以前に某電機会社から研究助成金を頂いた折に、その会社々長が「これだけの利益をうみ出すのに、電球を一体幾つ売る必要があるのかを良く考えて大切に使って下さい」といわれていた事を、茅先生が伝えて下さったのを思い出しました。

もう一つ、企業内研究者のレベルは決して低くはないことを申し上げておきましょう。現在、なお研究所を拡充しつつありますので、ブレイン・ハンティングは私の重要な責務の一つですが、この材料研究所の前身であった技術研究所から引き続き在職の研究員にも何人も素晴らしい人材が居ます。この人達は決して発表論文の数や、いわば大学的な議論の進め方が少し上手くないという点などでは評価が出来ません。研究テーマが周囲の事情で突然変えられるという“危険”の中で、その時、状況の目標にピッタリと合った基礎的な素養と実際的な力をいち早く身につけてしまうのは、流石と云う他はありません。その上に、研究テーマについても決して受動的ではなく、多くの提案が常に寄せられます。それらを聴き、議論して、私が多くを学ぶことの出来るのは本当に大変な楽しみになっています。

### ☆

大学と企業との距離が一般的にもっと近くなれば良い、とつくづく考えます。この 2 つはすでにいわゆるハイテク絡みの多くの分野で互いに近い存在になっていると思いますが、私はその傾向が他のところも含めてもっと進むべきだと云いたいのです。

過日、在る国立大学附属研究所で、大学と企業との共同研究について討論会が開かれました。私自身は残念ながら出席の機会を得ませんでしたが、その会のあとで大学関係者数人の方々からお話を伺いますと、それが非常に大学側に立った発想に終始していて、現職に移った直後だっただけに、私に

はそれが少なからず印象的でした。大学での研究を活性化させるためには、大学へ企業から積極的に研究者を招くとか、それに見合う研究費を導入するとか云ったお話を伺った訳です。

私見を申しますと、このやり方ではいかにも片手落ちです。企業から大学に研究者の留学をお願いするのは、企業にとっても、新しい知識の導入、研究員の教育という面でまさに大きなプラスになります。そして私のところも現在約10%の研究員を大学と国立の研究所にお願いしています。ただし、それに加えて基本的に重要なのは、軸とも柱ともなる人材がもっともっと大学と企業の間で混じり合うことではないでしょうか。それは、一方での経験がもう一方での仕事に様々な面でとても好い影響を与えるであろうと考えるからです。現に長岡技術科学大学では、教授にはなるべく企業での研究の経験者を採用するというご方針と聞いています。また、残念な例では、某大学の研究所ではこれと同種のルールを決めたのに、何年か経つうちにそれが守られなくなってしまったとか。——いずれにせよ、もっと産・学あるいは産・学・官の間で互いのバリアが低くなつて、人の交流が盛んにならなければいけないのでしょう。大学から企業に出てまた大学に移る…という類いのことが、アメリカ並みにとは申しませんが、せめてもっとずっと頻繁になって来ないものでしょうか。

☆

当研究所は昭島市にあります。立川駅から車で10分ちょっとのところです。私のほうには教えていただきたい事が山ほどございますし、また、どんな研究所を作りつつあるかを見ていただき、忌憚のないところをお聴かせ願えればという気持ちも強いのです。お近くにいらっしゃる折には、是非共どうぞお訪ね下さいますよう、心からお待ちしております。

(1988年4月)

## 物性研究所談話会 (題材・題・大東) (講演)

准安定ヘリウム原子一固体表面衝突による電子放出の測定 (MDS) (題材・題・大東)

日 時 1988年3月7日(月)午後4時~5時 (題材・題・大東)

場 所 物性研究所 旧棟1階講義室 (題材・題・大東)

講 師 西 塾 敏助教授 (題材・題・大東)

(所属) (客員部門, 豊橋技術科学大学) (題材・題・大東)

題 目 準安定原子  $\text{He}^*$  ( $2^1\text{S}$ ,  $2^3\text{S}$ ) を用いた表面最外層電子状態の分析 (題材・題・大東)

要 旨 : (題材・題・大東)

準安定ヘリウム原子一固体表面衝突により放出された電子を用いて表面電子状態を研究する手法を Metastable deexcitation spectroscopy (MDS) と呼んでいる。電子放出のメカニズムとして二種の過程が知られているが、いずれも  $\text{He}$  1s軌道の関与するオーシェ過程なので、入射  $\text{He}^*$  の 1s軌道と重なり合う程強く真空側に露出されている電子軌道のみを選択的に検出することが可能である。

ここでは、MDSの原理と特徴、また  $\text{He}^*$  ビームの作り方も含めた実験上の事柄を述べた後、MDSの応用として

○金属の清浄表面とその上への分子の吸着

○半導体表面上へのアルカリ金属吸着

などの測定例を検討して、MDSの表面敏感性を浮き彫りにする。その中で、準安定原子脱励起メカニズムが表面の局所的ポテンシャルや吸着状態にいかに依存するか、または表面近傍での励起エネルギーシフトの問題点なども指摘する。

日 時 1988年3月22日(火)午後4時~5時 (題材・題・大東)

場 所 物性研究所 旧棟1階講義室 (題材・題・大東)

講 師 趙 見 高 (Jian-gao Zhao) (題材・題・大東)

(所属) (中国科学院物理研究所) (題材・題・大東)

題 目 準結晶の構造と磁性 (題材・題・大東)

要 旨 :

正20面体の対称性を有する準結晶の構造と磁性に関する中国科学院物理研究所における研究の現状について。

日 時 1988年4月11日(月)午後4時~5時 (題材・題・大東)

場 所 物性研究所 旧棟1階講義室 (題材・題・大東)

講 師 十 倉 好 紀 氏 (題材・題・大東)

(所属) (東大・理・物理)

題 目 High Tc の固体化学と電子的相図 -IBM Almaden での研究-

要 旨 :

- 1) 新しい銅酸化物ペロブスカイトの合成と物性。非超伝導金属と正方晶系 High Tc
- 2) Single layer (2 - 1 - 4) および 1 · 2 · 3 構造での電子的相図。化学的ホール濃度  $[Cu-O]^{+p}$  に対する  $T_c$  の依存性 ( $0 < P < 0.45$ )。1 · 2 · 3 構造 ( $A_1B_2Cu_3O_y$ ) での y-p 相図と Insulator-High Tc 相境界。

等について、我々 (Y. Tokura & J. B. Torrance) の結果を紹介したい。

日 時 1988年 4月18日 (月) 午後 4 ~ 5 時

場 所 物性研究所 旧棟 1 階講義室

講 師 Prof. M. von Ortenberg.

(所属) (客員部門, Physikalisches Institut der Universität Würzburg, FRG)

題 目 Semimagnetic Semiconductors - Concept and application of materials with tunable energy-band structure

要 旨 :

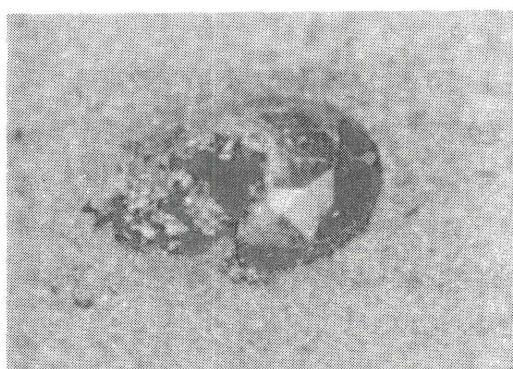
The energy-band structure of semimagnetic semiconductors is essentially determined by the exchange interaction between the quasi-free carriers of the host lattice and the localized electrons of the paramagnetic substituents. The tunability of the microscopic interaction via temperature and magnetic field results in a variety of interesting phenomena and applications in two-and three-dimensional systems.

## 物性研ニュース

## 物性の用語同窓会

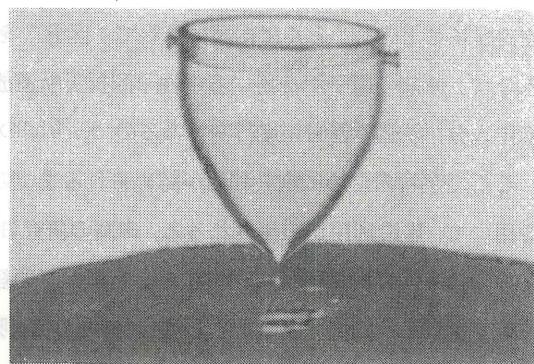
### 「極限の世界」科学技術庁長官賞、日本産業映画・ビデオ大賞受賞

物性研究所の創立30周年記念事業の一環として、物性研究所が監修・指導して製作した科学映画「極限の世界」(企画・東京書籍、製作・東京文映)は、先頃行われた第29回科学技術映画祭(科学技術振興財団などが主催)において、科学技術庁長官賞受賞<sup><科学(理科)教育部門></sup>を受賞した。この映画は物性研究所で研究が進展している極限物性研究のうち、超高压、超低温、超強磁場について、非専門家、高校生にも分かるようにわかり易く解説したものである。(「物性研だより」第27巻第5号23ページ参照) 4月22日に科学技術館サイエンスホールで表彰式および他の受賞作品とともに映画上映が行われた。4月29日にはNHK教育テレビで放映された。また第26回日本産業映画・ビデオコンクール(日本産業映画協議会主催、文部省、通産省、毎日新聞社後援)においても日本産業映画・ビデオ大賞を受賞し、5月25日毎日新聞誌上で発表があった。



加熱されて炭になったダイアモンド(超高压)

#### 「極限の世界」より



ガラス壁をはい上がる超流動ヘリウム(超低温)



電磁力のため変形して破壊寸前のマグネットの瞬間写真(超強磁場)

## 共同利用の改定

外来研究員等委員会

物性研究所の共同利用は、全国物性研究者の研究遂行に資するため、各種研究員制度、施設利用、共同利用、短期研究会等が設けられている。そのうち、施設利用についてみると、最近の利用度は表1に見られるように、過密状態である。共同利用施設運営費の著しい不足のため、旅費は宿泊費をゼロ査定しているにもかかわらず、さらに申請額の約1/2、実験等の経費（校費）は約1/3に削って、高い採択率を確保している。しかし、物性研での極限物性を中心とした設備の改善が進み、建設期は過ぎて実用段階になり、施設利用は今後増加すると考えられる。一方、全国各大学の物性研究の設備も可成りの程度充実し、施設利用の質の変化が現れつつある。また、共同研究を重視する方針が打ち出されているが、共同利用制度の改善には至っていない。しかし、客員部門が2部門に増強され、この客員部門の充実によって、実質的な共同研究が効果的な形で遂行されてきている。

このように物性研究所の共同利用のあり方は曲がり角にさしかかっている。これまででも外来研究員等委員会、共同利用施設専門委員会でこのことが論じられてきた。“物性研だより”第27巻第2号（1987年7月）でも、「小特集：物性研の共同利用はどうあるべきか」として取り上げられている。

今回、物性研究所の共同利用のあり方を検討し、その第一歩として、施設利用を中心に取り扱いを改定することとし、とくに申請に際して“区分”を設け、充足率を段階をつけて算定する方法を導入した。原研の原子炉を用いる中性子回折と軌道放射物性研究施設の施設利用は、将来計画が実行段階に入り、設備の整備が進行中であるので、今回の改定には含めない。

ここで参考のために施設利用が認められるまでの現在のプロセスを説明しておく。資料1の申請書を用いて、施設利用が申請されると、申請の研究日程に基づき旅費を算出し、資料2の用紙に記入して申請書と共に関係所員に送付する。所員が必要経費を記入し、サインをし、共同利用掛に返送する。それを集計し、採択率は原則として100%として、嘱託研究員、施設利用は区別しないで、ほぼ一律に充足率を算出する。この充足率を用いて期日、校費を決め（案），所員の了解を得た後に、外来研究員等委員会の資料を作成する。

### 1. 共同研究

従来共同研究と呼んでいるものは廃止する。これは校費、旅費の規模が小さく、それに比べて、申請方法、研究報告で課せられた義務が大きいため、最近はあまり活用されていない。一方、客員部門の充実により、この種の共同研究はもっと効果的に行われている。また、次項に述べるように、従来の施設利用を共同利用と改称し、これに短期集中型、共同研究を設けるので、従来の共同研究の存在意義は薄れる。

## 2. 共同利用（従来の施設利用）

- (1) 共同研究と施設利用に分ける。申請書には、その“区分”的希望を記入する。
- (2) 共同研究は充足率を高くする。そして、所員が資料2の用紙に記入する段階で推薦の順位を記入する。
- (3) 施設利用は校費、旅費の充足率は低くするが、施設利用の便宜はできるだけ図る。その際、持ち込みが困難な寒剤費、計算機使用料などの校費は考慮する。
- (4) 共同研究、施設利用の両者に短期集中型を設け、充足率を高くする。短期集中型であることと申請者が資料1を用いて申請する際に明記する。期間は原則として2期以内として、その後しばらくの期間は申請が採択されないこともある。
- (5) 短期集中型の実施に関連して、各人の1期の採択件数に制限を設ける。
- (6) 短期集中型および共同研究には、従来より詳しい報告書の提出を課す。また、共同利用の成果の別刷りの提出を義務づける。

注1：少しずつではあるが、共通実験施設の設備は更新されてきている。例えば電子顕微鏡、超伝導電磁石が昭和62年度に更新された。それに伴って、施設利用の増加が見込まれる。

注2：旅費・校費に研究室あたりの上限を設ける。件数についても上限を設けることがある。この際、前の期の所員会承認分も考慮する。上限の設け方等を含め、上限に関することは所員会申し合わせ事項とする。

注3：所員会承認分を含め、過去4～5期の実績表（関連するもののみ、旅費・校費のないものも含む）を作成する。

## 3. 嘴託研究員

嘴託研究員制度は存続させる。本所の研究計画の遂行上、嘴託研究員として委嘱する必要がある。採択率、充足率は別途に基準を設ける。ただし、現在研究期間は6か月を限度とすることになっているが、この制限は撤廃する。

## 4. 留学研究員

表1. 施設利用（一般）

現在、運用上旅費、校費の配分は6か月を限度としているが、この制限を撤廃する。	件数	人数	校 費	旅 費
1985年度 後 期	119	196 (90)	2,946,000 (7,098,040)	3,104,600 (6,989,000)
1986年度 前 期	127	201 (84)	2,425,000 (8,025,900)	3,539,700 (6,733,900)
1986年度 後 期	137	186 (96)	3,061,500 (8,327,200)	3,430,000 (7,516,100)
1987年度 前 期	138	197 (91)	2,248,500 (8,724,300)	3,321,500 (6,445,900)

（ ）数字は旅費支給者数  
校費・旅費の（ ）内は申請額、上段数字は配分額

外來研究員 施設利用  
留学研究員 申請書

No.

昭和 年 月 日

東京大学物性研究所長 殿

所 属

職 名

氏 名

印

級 号 債

級

号 債

級号債発令年月日 ( 年 月 日 )

申請者の連絡先 電話

内線

下記研究計画により外來研究員として貴所で研究したいので申請します。

研究題目

研究目的

○ 研究の実施計画使用装置方法等詳細に。グループで研究される場合は代表者が記入のこと。

→ ○ 短期集中型を希望する場合期間(原則として1年以内)を明記してください。

昭和 年 月 日 ~ 昭和 年 月 日

→ ○ 共同利用の場合、共同研究・施設利用を希望する。

○ 放射線作業に従事することの有無。 有 • 無 (○で囲むこと)

希望部門 研究室名( 部門 研究室 )

今期、他の研究室への施設利用を申請していますか。  していない  している

申請している場合の研究室、共通実験室名( )

## アーネスト・セシルの申請書類

## 資料 2

<b>研究者所属・職名・氏名</b>		<b>級号 備考</b>
所内取扱		* <input type="checkbox"/> 嘱託研究員 <input type="checkbox"/> 留学研究員 <input type="checkbox"/> 共同利用
<b>研究期間</b>		所内泊    所外泊 日帰り
事務的項目記入欄		研究室    経費
旅 費 ¥ 日 当 ¥ 宿泊費 ¥		旅費 ¥ 校費 ¥
<b>必要経費(校費)</b>		
<b>品名</b>	<b>規格</b>	<b>員数</b>
* 共同利用の場合		
この研究を行なうために上記日数及び校費を必要と認めます。		
所員サイン		

## 共同利用の改定にあたって

村田 好正

去る昭和63年3月11日に開催された共同利用施設専門委員会で、物性研の共同利用の改定が承認され、昭和63年度後期から新しい方式が実施されることになった。改定の内容については、本号に「共同利用の改定」（以後単に「改定」として引用）として前掲されている。しかし、今まで外来研究員等委員会、共同利用施設専門委員会等で重ねられてきた討議に加わっていない方々には、この「改定」では理解しにくい点も多々あると思われる。そこで補足説明を述べることにする。

まず第1に、共同利用は規程が先行して利用しにくいものとなることを極力避けなければならない。今回、共同利用を共同研究と施設利用に分けたが、これに定義を与え、厳密に分類することは避けることにした。大よその目安として、共著の形で成果を論文にする場合には共同研究と考えればよい。また、申し込みの時点では施設利用であった研究テーマが、当然のことながら、共同研究になることがある。共同研究は充足率を高くするので、採択率を低くしなければならない場合も生じよう。それを避けるためには共同研究として申し込んだ場合にも施設利用なりの充足率で採択しなければならない場合も起こってくるであろう。また、採択率、充足率は、その期の申し込み状況に大きく依存するので、今のところ目安であっても推定するのは困難である。これから2～3期にわたって実施して行くうちに一応の目安が出来るものと期待している。そのため、運用上の自由度は多く残すようにした。（例えば「改定」2. (4)）

共同利用の申し込みに際しては、関係所員等と打ち合せの上、共同研究か施設利用か、短期集中型を希望するなどを相談して、申し込んでほしい。今回の改革から、旅費・校費に研究室あたりの上限を設けざるを得ないが、申請者はこの点を気にすることなく積極的に申し込んでほしい。また、面識のない方々も積極的に関係所員と接触するようにしてほしい。上限を設けることなど今回の改革が、共同研究・施設利用の利用者の幅を狭くし、各所員のまわりで小さなスクールを作るようなことになってしまったら、それは全国共同利用研究所としての存在意義がなくなることである。共同利用施設運営費が現状でも著しく不足しているのに、さらに今回 共同利用、短期集中型を設け、充足率を高くしようとしているので、研究室あたりの上限を設けることは止むを得ない処置と考えている。共同利用研として、共同利用の実がすべての研究室で活発に行われることが望ましく、ある少数の研究室に集中することは決してあるべき姿ではないと思っている。また、共同利用施設運営費の校費は、現状はごく少数の研究室で全体のほぼ半額の配分を受けている。もちろん、研究の内容によって経費のかかり方に相違はあるが、共同利用施設運営費がごく少数の常連の研究室で集中的に使用されていることは、共同利用研究所として正常な運営とは思えない。これらのことを考え、上限に関する議論は共同利用研のあるべき姿を考えるよい機会であり、上限に関することは所員会（教授会）の申し合わせ事

項目にした。　　○合意の裏面（複数枚又）受付書の表記欄に附記  
東京工業大学

共同利用に、共同研究の区分を設けて充足率を高くすると、従来行われていた、原則として100%の採択率は守れない可能性がある。採択率を低くすることが、成果を上げ易い研究や、気心が知れたグループのみとの研究へと流れる危険性をはらむ。そのことは厳に避けなければならない。そのようにならないよう、全国の物性研究者が積極的に物性研究所を共同利用すべく申し込み下さることをお願いする次第である。例えば、私の専門分野である表面物性の場合、<sup>1</sup> 我国の実験分野の研究者の数は欧米に比べて大変少ない、しかしこの分野に興味を持つが、始めるにはバリヤーが高く感じられる場合、施設利用を申し込み、バリヤーを低くするのも共同利用の望ましい形態の一つと思う。<sup>2</sup> 本

一方、我国の先端産業と物性研で行われているような真の基礎研究との共同研究は、開かれたものとして今後積極的に行われることが望ましい。そのため、嘱託研究員の制度が使われるようにしてある。また、留学研究員制度を大いに活用して下さることを切望する。というのは、私自身にとって大学院博士課程の在学時に他大学で過ごし、広く他の分野を知り学ぶ機会があったのが大変有意義であった。

今回の改定は共同利用を効果的にすすめて行くための試行錯誤の一つであり、制度の柔軟性のある運用と、物性研が共同利用研として良く機能するための改定は今後も必要であると考えている。今後ともどしどし御意見をお寄せいただきたい。

最後になりましたが、改定案の作成にあたって、昭和62年度の外来研究員等委員会委員の方々、特に所外委員の遠藤康夫、恒藤敏彦、三輪浩、本河光博の諸先生方には、お忙しい中を多くの時間を割いていただき、貴重な御意見を下さいましたことに深く感謝いたします。

○合意の裏面（ト）

○青姫鶴

（さるさまで下さり）オカリ農業○

○眼鏡の文豪妻主○

（内田洋0002）書画推進部○

（さるのお魚の求市）書民衆のびくじ入本の著述権譲り又員の導領○

○書画推進部○

○合意の裏面（ロ）

（お合意裏面を認めた鶴）書画部○

（むか書結び・鶴）書画部○

（さるさまで下さり）オカリ農業妻主○

○眼鏡の文豪妻主○

○さるさまで書画推進部より來出○

## 東京大学物性研究所の助教授（又は教授）公募の通知

下記により助教授（又は教授）の公募をたいします。適任者の推薦、希望者の応募をお願いいたします。

### (1) 研究部門名及び公募人員数

凝縮系物性部門 新物質開発グループ 助教授（又は教授）1名

### (2) 研究分野及び内容

本所では、強い電子相関をもつ物質系を研究対象とし、物理的に新しい性質や概念を探索する新物質開発研究を推進しつつある。

今回の公募では、この研究の中心的役割を担う組織として設けられた凝縮系物性部門の新物質開発グループにおいて、構成メンバーである武居所員、齋藤所員と協力しつつ、主として無機超伝導物質の合成とその物性の研究を行い、この分野の新しい展開に意欲を持つ研究者を望む。

### (3) 公募締切

昭和63年6月18日（土）（必着）

### (4) 就任時期

決定後なるべく早い時期を希望する。

### (5) 提出書類

#### (イ) 応募の場合

- 履歴書
- 業績リスト（必ずタイプすること）
- 主要論文の別刷
- 研究計画書（2000字以内）
- 所属の長又は指導教授等の本人についての意見書（宛先へ直送のこと）
- 健康診断書

#### (ロ) 推薦の場合

- 推薦書（健康に関する所見を含む）
- 履歴書（略歴で結構です）
- 主要業績リスト（必ずタイプすること）
- 主要論文の別刷
- 出来れば研究計画書に準ずるもの

(6) 宛 先 東京大学物性研究所総務課人事掛

〒106 東京都港区六本木7丁目22番1号

東京大学物性研究所総務課人事掛 電話の音玉藏 (03) 3471-2020 奥公の手頭 (03) 3471-2021

電話03 (478) 6811 内線5004, 5022

専員人蔵 (03) 3471-2020 門脇 (03) 3471-2021

(7) 注意事項

凝縮系物性部門 新物質開発グループ助教授 (又は教授) 応募書類在中、又は意見書在中の旨  
を表記し、書留で郵送のこと。

(8) 選考方法 条件満たす者を候補者とし、そのうち候補者の中から選考会で選出する。

東京大学物性研究所教授会で審査決定いたします。ただし、適任者のない場合は、決定を保留  
いたします。

昭和63年4月12日

東京大学物性研究所長

守 谷 (03)

（著者）（土）日暮良子 甲斐晴晶

横川正義 (03)

（著者）（土）日暮良子 甲斐晴晶

横川正義 (03)

合意の範囲 (03)

（著者）（土）日暮良子 甲斐晴晶

（著者）（土）日暮良子 甲斐晴晶

（著者）（土）日暮良子 甲斐晴晶

## 東京大学物性研究所の助手公募の通知

下記により助手の公募をたいします。適任者の推薦、希望者の応募をお願いいたします。

### (1) 研究室名及び公募人員数

凝縮系物性部門 石川研究室 助手 1名

### (2) 研究分野

本研究室では、重い電子系や金属-非金属相転移など強い電子間相互作用に基づく諸現象を比熱や輸送現象などの測定によって研究している。希釈冷凍機やスキッドなどを用いた測定手段に通じているばかりでなく、対象となる物質一般について広い知識を有し、試料作成およびその評価にも積極的に取り組める人を望む。

### (3) 資 格

修士課程修了、又はこれと同等以上の能力を持つ人。

### (4) 任 期

5年以内を原則とする。

### (5) 公募締切

昭和63年6月25日（土）（必着）

### (6) 就任時期

決定後なるべく早い時期を希望する。

### (7) 提出書類

#### (イ) 推薦の場合

- 推薦書（健康に関する所見を含む）
- 履歴書（略歴で結構ですが、学位名・単位取得のみ。論文提出中等を明示のこと）
- 主要業績リスト（必ずタイプすること）ほかに主な論文の別刷

#### (ロ) 応募の場合

- 履歴書（学位名・単位取得のみ・論文提出中等を明示のこと）
- 業績リスト（必ずタイプすること）、及び主な論文の別刷
- 所属の長又は指導教授の本人についての意見書（宛先へ直送のこと）
- 健康診断書

### (8) 宛 先

〒106 東京都港区六本木7丁目22番1号

東京大学物性研究所総務課人事掛

電話03(478) 6811 内線5004, 5022

## (9) 注意事項

凝縮系物性部門 石川研究室助手応募書類在中、又は意見書在中の旨を表記し、書留で郵送のこと。

## (10) 選考方法

東京大学物性研究所教授会で審査決定いたします。ただし、適任者のない場合は、決定を保留いたします。

## 人 事 異 動

所 属	職・氏名	発令年月日	異動内容
事務部	共同利用掛長 山本欽一	63. 3. 31	定年退職
共通実験室 工 作 室	事務室主任 島田綾子	"	"
"	技官 内堀孝	"	再任用任期満了退職
事務部	用度掛 矢作直之	"	辞職
凝縮系物性部門	教授 中田一郎	63. 4. 1	63. 3. 31限り停年退職
"	助手 高畠敏郎	"	広島大総合科学部助教授へ
極限物性第一部門 超低温物性	助手 秋元彦太	"	採用
理論部門	助手 北孝文	"	工学部助手より
附属軌道放射物性研究施設	助手 木下豊彦	"	採用
共通実験室 工 作 室	技官 内田正之	"	採用
凝縮系物性部門	助手 平林泉	"	休職期間更新(63. 9. 30まで) ドイツ、マックスプランク固体物理学研究所
"	教務職員 龍川仁	"	休職期間更新(64. 3. 31まで) 米国、ロス・アラモス国立研究所
凝縮系物性部門 凝縮系物性	教授 森垣和夫	"	凝縮系物性部門より
"	" 竹内伸	"	"
"	" 安岡弘志	"	"
"	" 木下實	"	"
凝縮系物性部門 新物質開発	" 武居文彦	"	物質開発室より
凝縮系物性部門 凝縮系物性	助教授 石川征靖	"	凝縮系物性部門より

所 属	職・氏名	発令年月日	異動内容
凝縮系物性部門 凝縮系物性	助教授 家 泰 弘	63. 4. 1	凝縮系物性部門より
"	" 高橋 敏男	"	"
凝縮系物性部門 新物質開発	" 斎藤 軍治	"	"
凝縮系物性部門 凝縮系物性	助手 近藤道雄	"	"
"	" 木村 薫	"	門脇圭輔、斎藤義徳、木村賛、高橋義徳
"	" 西原弘訓	"	"
"	" 菅野 忠	"	門脇圭輔、斎藤義徳、木村賢、丸山泰母
"	" 爲ヶ井 強	"	"
"	" 中谷 信一郎	"	"
凝縮系物性部門 新物質開発	竹屋 浩幸	"	物質開発室より
"	" 矢持 秀起	"	凝縮系物性部門より
凝縮系物性部門 研究技術室	" 青木 真人	"	物質開発室より
"	" 坂井 富美子	"	(門脇昌客) 門脇二葉皆樹
"	" 鈴木 邦夫	"	共通測定系電子顕微鏡室より
"	" 佐藤 昭一	"	共通測定系共通X線室より
凝縮系物性部門 凝縮系物性	技官 吉田 美穂子	"	凝縮系物性部門より
"	" 橋本 辰男	"	"
"	" 清水 祐	"	"
"	" 野澤 清和	"	"

所 属	職・氏名	発令年月日	異動内容
凝縮系物性部門 凝縮系物性	技官 照井 賢二	63. 4. 1	凝縮系物性部門より
"	" 濵谷 孝	"	"
"	" 渡邊 昭子	"	"
"	" 岡本 直子	"	"
凝縮系物性部門 新物質開発	" 浦山 初果	"	"
"	" 小池 正義	"	"
凝縮系物性部門 研究技術室	" 北澤 恒男	"	物質開発室より
"	教務職員 古賀 瑞一	"	共通測定系磁気測定室より
"	" 小黒 勇	"	"
凝縮系物性部門 新物質開発研究技術室	技官 市原 正樹	"	共通測定系電子顕微鏡室より
(客員部門) 固体物性部門	助教授 谷口 雅樹	"	併任(64. 3. 31まで) (広島大理学部助教授)
"	" 中井 裕	"	" (63. 9. 30まで) (大坂大理学部助教授)
(客員部門) 極限物性第二部門	阿知波 洋次	"	客員研究員( ) (都立大理学部助教授)
"	奥田 喜一	"	" ( ) (大阪府大工学部助教授)
事務部	総務課長 久保 一博	"	社会科学研事務長へ
"	総務課長 村山 恭吾	"	附属図書館総務課課長補佐より
"	庶務掛長 菊池 敏昭	"	教養学部総務課庶務掛長へ
"	庶務掛長 臼井 幹郎	"	大型計算機センター庶務掛長より
"	共同利用掛長 野田 恭二	"	医学部附属病院総務課職員掛長より

所 属	職・氏名	発令年月日	異動内容
事務部	司計掛主任 高橋 仁	63. 4. 1	司計掛より
"	用度掛 久下谷 清美	"	宇宙科学研究所へ
"	" 小田嶋 輝明	"	社会科学研究所より
"	" 中山 雅治	"	採用

## 昭和63年度 物性研究所協議会委員名簿

所 属	職 名	氏 名	任 期	備 考
阪 大 (理)	教 授	伊 達 宗 行 (再)	61.9.1~63.8.31	物 研 連
"	"	金 森 順次郎 (再)	"	"
学習院大 (理)	"	川 路 紳 治 (再)	"	"
名 大 (理)	"	長 岡 洋 介 (再)	"	"
東 北 大 (理)	"	糟 谷 忠 雄 (再)	"	"
東 工 大 (工)	"	相 澤 益 男	"	化 学 会
東 大 (理)	"	上 村 洸 (再)	"	東 大 • 理
"	"	二 宮 敏 行 (再)	"	"
"	"	黒 田 晴 雄 (再)	"	"
東 大 (工)	"	国 府 田 隆 夫	"	東 大 • 工
京 大 (基研)	"	高 山 一 (再)	"	京 大 • 基 研
高 エ ネ ル ギ 一 物 理 学 研 究 所	"	富 家 和 雄 (再)	"	高 工 研
分 子 科 学 研 究 所	"	廣 田 栄 治	"	分 子 研
東 大 (物 性 研)	"	竹 内 伸	"	所員会・所内委員
"	"	小 川 信 二	"	"
"	"	矢 島 達 夫	"	"
"	"	斯 波 弘 行	62.4.1~63.8.31	"
東 大 (工)	学部長	伊 理 正 夫		官 職 指 定 委 員
東 大 (理)	"	藤 田 宏		"
東 大 (核 研)	所 長	山 崎 敏 光		"
" (事 務 局)	局 長	齊 藤 尚 夫		"

## 昭和63年度 共同利用施設専門委員会委員名簿

所 属	職 名	氏 名	任 期	備 考
阪 大 (理)	教 授	菅 井 宏	63.4.1~65.3.31	化 研 連
広 島 大 (総合科学)	"	好 村 滋 洋	"	物 研 連
東 大 (理)	"	壽 榮 松 宏 仁	"	"
名 大 (理)	"	長 岡 洋 介	"	"
山 形 大 (理)	講 師	長 坂 慎 一 郎	"	"
東 工 大 (理)	教 授	永 田 一 清	"	"
京 大 (理)	助 教 授	平 井 章	"	北 東 連
広 島 大 (理)	教 授	藤 田 敏 三	"	"
北 里 大 (理)	"	都 福 仁	"	"
東 大 (工)	"	菊 田 惇 志	"	所 員 会
群 馬 大 (工)	"	赤 岩 英 夫	62.4.1~64.3.31	化 学 会
東 工 大 (工)	"	森 川 陽	"	"
阪 大 (基礎工)	"	朝 山 邦 輔	"	物 研 連
静 岡 大 (理)	講 師	石 館 健 男	"	"
広 島 大 (理)	教 授	井 上 正	"	"
東 大 (理)	"	小 林 俊 一	"	"
阪 大 (理)	講 師	白 鳥 紀 一	"	"
京 大 (理)	教 授	恒 藤 敏 彦	"	員 会
信 州 大 (教養)	"	三 輪 浩	"	"
高 工 ネ ル ギ 一 物 理 学 研 究 所	"	佐 藤 繁	"	所 員 会
分 子 科 学 研 究 所	"	吉 原 経 太 郎	"	員 会

昭和63年度 軌道放射物性研究施設運営委員会委員名簿

役名	所 属	職名	氏 名	任 期	備考
委員長	物 性 研 究 所	教 授	石 井 武 比 古	63. 1. 1~64. 12. 31	再 任
委 員	"	"	森 垣 和 夫	"	"
"	"	助 教 授	寺 倉 清 之	"	"
"	"	"	菅 滋 正	"	"
"	"	"	宮 原 義 一	"	"
"	東 大 (核研)	教 授	山 田 作 衛	"	
"	名 大 (理)	"	伊 藤 憲 昭	"	再 任
"	東 北 大 (理)	"	小 谷 章 雄	"	
"	東 大 (理)	"	黒 田 晴 雄	"	
"	大阪府立大 (工)	"	塘 賢二郎	"	再 任
"	東 北 大 (理)	助 教 授	池 沢 幹 彦	"	
"	東 大 (工)	教 授	国 府 田 隆 夫	"	再 任
"	分子科学研究所	"	木 村 克 美	"	"
"	高 エ ネ ル ギ 一 物 理 学 研 究 所	"	千 川 純 一	"	"

昭和63年度 外来研究員等委員会名簿

委 員 長	竹 内 伸	62. 4. 1~64. 3. 31	委員長任期 63. 4. 1~64. 3. 31
委 員	家 泰 弘	"	
"	小 川 信 二	63. 4. 1~65. 3. 31	
"	高 田 康 民	"	
所 外 委 員	三 輪 浩	62. 4. 1~64. 3. 31	信 州 大 (教養)
"	恒 藤 敏 彦	"	京 大 (理)
"	壽 榮 松 宏 仁	63. 4. 1~65. 3. 31	東 大 (理)
"	都 福 仁	"	北 大 (理)

昭和63年度 人事選考協議会委員名簿  
(物研連推薦)

所 属	職 名	氏 名	任 期	備 考
東 北 大 (理)	教 授	遠 藤 康 夫	63. 4. 1~65. 3. 31	
阪 大 (理)	"	伊 達 宗 行	"	
広 島 大 (総合科学)	"	渡 部 三 雄	"	再 任
東 大 (理)	"	小 林 俊 一	63. 4. 1~64. 3. 31	"
名 大 (理)	"	長 岡 洋 介	"	吉 田 八 木

## 昭和63年度 前期 短期研究会一覧

研究会名	開催期日	参 加 予定人員	提 案 者
新しい波長可 変レーザー と非線型光 学材料の生 成とその応 用 の 研 究	5月27日 5月28日 (2日間)	30名	○松 岡 正 浩 (東大・物性研) 大 倉 澄 (大阪市大・工) 中 井 祥 夫 (京 大・理) 櫛 田 孝 司 (阪 大・理) 矢 島 達 夫 (東大・物性研) 黒 田 寛 人 (東大・物性研)
物性研究に おける計算 物 理	5月30日 5月31日 (2日間)	50名	○寺 倉 清 之 (東大・物性研) 安 藤 恒 也 (東大・物性研) 今 田 正 俊 (埼 玉 大・理) 金 森 順 次 郎 (阪 大・理) 高 橋 實 (東大・物性研) 能 势 修 一 (慶 応 大・理工)
アモルファ ス半導体超格 子の構造と 物 性	6月15日 6月16日 (2日間)	60名	○森 恒 和 夫 (東大・物性研) 広瀬 全 孝 (広 島 大・工) 米 沢 富 美 子 (慶 応 大・理工) 仁 田 昌 二 (岐 阜 大・工)

○印は提案代表者

## 昭和63年度 前期 外来研究員一覧

## 嘱託研究員

所 属	氏 名	研究期間	研 究 題 目	関 係 員 所	備 考
(財)工業開発研究所レーザー研究センター長	藤岡知夫	4/1~9/30 上記期間中 (月2日)	XUV レーザーの基礎過程に関するシミュレーションの研究	黒田	
(財)工業開発研究所研究員	八木隆志	"	"	"	
(財)工業開発研究所研究員	高田洋一	"	"	"	
東芝超LSI研究所研究主務	酒井明	4/1~9/30 上記期間中 (週2日)	分子線散乱法による表面の研究	櫻井	
熊本大(理)助教授	岡田邦英	4/1~9/30	核スピンの偏極状態における核磁気共鳴	久保田	熊本大(理) M.C.1 勝谷俊彦の指導教官
横浜市立大教授	山田谷時夫	4/1~9/30 上記期間中 (月2日)	特殊な構造をもつ酸化物の合成	毛利	
北海道東海大学(教育開発研究センター)教授	四方周輔	5/10~5/15 6/23~7/3	低温・高圧下の電気・磁気測定技術の確立	"	
気象庁地磁気観測所主任研究官	小嶋美都子	4/1~9/30 上記期間中 (週1日)	高温高圧下における岩石の電気伝導度の測定	八木	
岐阜大(工)教授	仁田昌二	4/21~4/23 7/21~7/23 8/18~8/20	テトラヘドラル系アモルファス半導体の物性	森垣	
慶應義塾大(理工)教授	米沢富美子	4/1~9/30 上記期間中 (月1日)	テトラヘドラル系アモルファス半導体の電子状態	"	

## 嘱託研究員

農業福指課

所属	氏名	研究期間	研究題目	関係員	備考
筑波大 (物質工学系) 助教授	上田和夫	4/1~9/30 上記期間中 (週1日)	強相関電子系の磁性と超伝導	守谷	王高 昌義 英輝 雄史
埼玉工大 非常勤講師	田村明	4/1~9/30 上記期間中 (週1日)	金属クラスターに対する殻補正の理論	菅野	重 慶 輝 英
北大 (工) 助教授	毛利哲夫	5/25~5/27 9/12~9/14	合金の平衡状態図の理論	寺倉	京 賀 雄 世
新潟大 (教養部) 教授	長谷川彰	5/9~5/12	稀土類化合物の電子構造の研究	寺倉	東 義 雄 英
九大 (教養部) 教授	中山正敏	5/11~5/14	固体上アルカリ吸着系の物性	"	茂 野 英 雄 達 哉
大阪府立大 (総合科学) 教授	柳瀬章	7/11~7/14	固体の電子状態計算のためのプログラム開発	"	太 原 要 義
奈良県立 医大 助教授	赤井久純	7/5~7/7	遷移金属合金の電子論	木山	一 代 喜 良 英 雄
阪大 (工) 教授	浜口智尋	6/13~6/17 9/12~9/14	2次元系における電子-格子相互作用	安藤	阪大(工)前期課程2年 森伸也の指導教官
東北大 (理) 助手	吉田博	7/18~7/19	物性研究のための大型電子計算機センター設置ワークショップ	電子計算機室	東 洋 大 学 電 算 研 究 所
東北大 (理) 助手	岡部豊	"	"	"	東 洋 大 学 電 算 研 究 所
東北大 (金研) 助教授	木戸義勇	"	"	"	東 洋 大 学 電 算 研 究 所

## 嘱託研究員

所属	氏名	研究期間	研究題目	関係員	備考
埼玉大 (教養部) 助教授	今田正俊	5/23~5/24 7/18~7/19	物性研究のための大型電子計算機センター設置ワークショップ	電子計算機室	
東大 (理) 助教授	塚田捷	"	"	"	
京大 (教養) 助教授	宮下精二	"	"	"	
東大 (教養) 助教授	浅野攝郎	"	"	"	
金沢大 (理) 助教授	樋渡保秋	7/18~7/19	"	"	
阪大 (理) 教授	金森順次郎	"	"	"	
分子研 (電子計算機センター) 助教授	柏木浩	"	"	"	
奈良県立 医大 助教授	赤井久純	"	"	"	
大阪府立大 (総合科学) 教 授	柳瀬 章	"	"	"	
慶應義塾大 (理工) 教 授	米沢富美子	5/23~5/24 7/18~7/19	"	"	
慶應義塾大 (理工) 助手	能勢修一	"	"	"	

## 嘱託研究員

(選一) 甲 順 論 文

所属	氏名	研究期間	研究題目	関係員	備考
群馬大 (教育) 教 授	菅原英直	4/18~4/19 6/20~6/21 7/18~7/19 8/8~8/9 8/22~8/23	高輝度シンクロトロン放射を用いたスピンド極光電子分光	SOR (菅)	東京 大学 物理 学部
高工ネ研 助 手	加藤博雄	5/11~5/12 8/24~8/25	"志郷口由"	大東 北理 助 手	北里 大 学 理 科 大 学
東北大 (理) 助 手	鈴木章二	4/18~4/19 6/20~6/21 7/18~7/19 8/8~8/9 8/22~8/23	中間階層"谷岡田山" (白川)	大 北 理 助 手	東 北 理 科 大 学
名大 (理) 助 手	中西彊	5/16~5/17 8/12~8/13	"牛脇琴美" (原田)	大 名 大 学 理 助 手	東 京 大 学 理 科 大 学
豊田工業大 教 授	神谷芳弘	5/16~5/17 8/1~8/2	"大庭来樹"	大 豊 田 工 業 大 学 教 授	東 京 大 学 理 科 大 学
高工ネ研 助 教 授	田中健一郎	4/1~9/30 上記期間中 (1泊2日・2回)	表面界面光電子分光実験 用誘導光路の設計、製作	SOR (柿崎)	東 京 大 学 理 科 大 学
高工ネ研 助 手	伊藤健二	4/1~9/30 上記期間中 (1泊2日・2回)	"畠尚津吉"	大 高 工 業 大 学 理 科 大 学	東 京 大 学 理 科 大 学

## 留学研究員

所属	氏名	研究期間	研究題目	関係員	備考
熊本大 (理) M. C. 1	勝谷俊彦	4/4~9/30	核スピンの偏極状態における核磁場共鳴	久保田	指導教官 熊本大(理) 助教授 岡田邦英
阪大 (工) 前期課程2年	森伸也	4/22~9/30	2次元系における電子-格子相互作用	安藤	指導教官 阪大(工) 教授 浜口智尋

## 施設利用(一般)

所 属	氏 名	研究期間	研 究 題 目	関 係 所	備 考
東北大 (理) 教 授	後藤武生	5/17~5/21	ZnP <sub>2</sub> 励起子の磁場効果	三浦	
東北大 (理) M.C.1	田口聰志	"	"	"	
埼玉大 (工) 助 教 授	山田興治	4/1~9/30 上記期間中 (週3日)	Si の強磁場に於けるマグネトフォノン共鳴	"	
東 大 (生研) 教 授	榎裕之	4/1~9/30 上記期間中 (9日間)	超強磁場を用いた化合物 半導体ヘテロ構造中の2次元電子系に関する研究	"	
東 大 (生研) 文部技官	松末俊夫	"	"	"	
東 大 (生研) 文部技官	野田武司	"	"	"	
東 大 (生研) D.C.1	吉村尚郎	"	"	"	
東 大 (生研) M.C.2	本久順一	"	"	"	
東 大 (生研) 助 教 授	荒川泰彦	4/1~9/30 上記期間中 (週2日)	強磁場内の半導体レーザの発振特性に関する研究	"	
山梨大 (教育) 助 手	渡辺勝儀	7/13~7/16 7/25~7/27	層状重金属ハライドの磁気光効果	"	
広 大 (理) 教 授	井上正	5/18~5/19	モリブデン酸化物の磁気光学測定	"	

## 施設利用(一般)

(第一) 用時 管理

所 属	氏 名	研究期間	研 究 題 目	関 係 員	備 考
広 大 ( 理 ) 助 手	小矢野 幹夫	5/16~5/21 6/13~6/18	モリブデン酸化物の磁気 光学測定	三 浦	
広 大 ( 理 ) 前期課程1年	堀 坂 修	"	"	"	
大阪市立大 ( 理 ) 講 師	小 松 晃 雄	6/16~6/19 7/28~7/31	超強磁場下でのBiI <sub>3</sub> 結晶 の種々の励起子の磁気光 効果	"	
大阪市立大 ( 理 ) M. C. 1	貝 津 功 剛	6/16~6/19	"	"	
東 北 大 ( 工 ) 教 授	深 道 和 明	4/12~4/13 6/7~6/10	アモルファス合金および 準結晶の磁性	後 藤	
東 工 大 ( 理 工 ) D. C. 1	栗 原 敏 也	4/1~9/30 上記期間中 (週3日)	イルメナイトCo <sub>1-x</sub> Mn <sub>x</sub> TiO <sub>3</sub> の磁性	"	
お茶の水女子大 ( 理 ) 教 授	伊 藤 厚 子	4/1~9/30 上記期間中 (28日間)	ランダム磁性体混晶の磁 化測定	"	
お茶の水女子大 (人間文化研究科) D. C. 1	有 賀 浩 子	"	"	"	
お茶の水女子大 ( 理 ) M. C. 1	小 舞 知 子	"	"	"	
横浜国立大 ( 工 ) 助 教 授	山 口 益 弘	4/1~9/30 上記期間中 (6週間)	磁場中の化学反応；磁性 金属水素化合物の平衡圧	"	
福 井 大 ( 工 ) 助 手	吉 村 一 良	7/18~7/25	Y(Co-A1) <sub>2</sub> の遍歴電子 メタ磁性転移における磁 気抵抗	"	

## 施設利用(一般)

所属	氏名	研究期間	研究題目	関係員	備考
福井大 (工) M.C.1	吉本義弘	4/1~9/30 上記期間中 (7泊8日・1回)	Y(Co-Al) <sub>2</sub> の遍歴電子 メタ磁性転移における磁 気抵抗	後藤	
名大 (工) 助教授	水谷宇一郎	6/6~6/11 7/11~7/16	M-Zr(M=Fe, Co, Ni) 非晶質合金の電子物性	"	
名大 (工) 後期課程2年	長谷川正	4/19~4/25 5/24~5/29	"	"	
名大 (工) 後期課程2年	長谷川正	4/1~9/30 上記期間中 (5泊6日・3回)	擬二元系3d遷移金属 非晶質合金の電子構造 と磁性	"	
名大 (工) 前期課程1年	中村一哉	4/1~9/30 上記期間中 (5泊6日・3回)	"	"	
名大 (工) 後期課程2年	長谷川正	4/1~9/30 上記期間中 (5泊6日・3回)	水素吸蔵及びメカニカル アロイングによって作成 された酸化物超伝導体の 超伝導特性	"	
名大 (工) 前期課程1年	竹平修	4/1~9/30 上記期間中 (5泊6日・3回)	"	"	
京大 (理) 助手	網代芳民	6/13~6/16 7/11~7/14	三角格子反強磁性体の磁 場中相転移	"	
京大 (理) M.C.1	稻見俊哉	"	"	"	
都立大 (理) 助教授	遠藤慶三	4/1~9/30 上記期間中 (10日間)	Lu(Co <sub>1-x</sub> M <sub>x</sub> ) <sub>2</sub> 系のメタ 磁性転移	"	
都立大 (理) M.C.2	飯島正徳	"	"	"	

## 施設利用(一般)

(第一回) 附録

所 属	氏 名	研究期間	研究題目	関係員	備 考
都立大 (理) M. C. 1	喜納恵里	4/1~9/30 上記期間中 (10日間)	Lu(Co <sub>1-x</sub> M <sub>x</sub> ) <sub>2</sub> 系のメタ 磁性転移	後藤	工場 実験室
名大 (工) 助教授	中村新男	6/14~6/18	固体のフェムト秒非線形 分光の研究	矢島	工場 実験室
岡山理大 (理) 助手	渡部明	5/23~6/3	ハイブリッド CPM リン グ・レーザーの研究	"	工場 実験室
東大 (理) 助手	桑田真	4/1~9/30 上記期間中 (週2日)	固体励起子系の超短パル ス時間分解分光	松岡	工場 実験室
東大 (理) M. C. 2	秋山英文	4/1~9/30 上記期間中 (週3日)		"	工場 実験室
静岡大 (理) 助手	富田誠	6/1~6/4	半導体ドープガラスの非 線型分光	"	工場 実験室
千葉大 (工) 助手	金光義彦	4/1~9/30 上記期間中 (月2日)	アモルファス半導体多層 薄膜のキャリア輸送特性	黒田	工場 実験室
千葉大 (工) M. C. 2	斎藤倫彦	"		"	工場 実験室
千葉大 (工) M. C. 1	杉本浩之	"		"	工場 実験室
産業医科大学 講師	黒田裕介	5/23~5/25	Nd-YAG レーザー、フ ェオフォーバイドaによ るレーザー光化学治療	"	工場 実験室
東京学芸大 (教育) 助教授	並河一道	4/1~9/30 上記期間中 (週3日)	低エネルギー散漫散乱に よる電子スピン解析器の 試作	村田	工場 実験室

## 施設利用(一般)

所属	氏名	研究期間	研究題目	関係員	備考
東工大 (理) 助教授	西田信彦	4/1~9/30 上記期間中 (週1日)	極低温における物質表面 の研究	村田	
岡山大 (理) 教授	岩見基弘	4/1~9/30 上記期間中 (5泊6日・4回)	極低温での半導体表面へ の金属膜形成過程	"	
都立大 (理) M.C.1	水野清義	4/1~9/30 上記期間中 (週4日)	吸着分子のレーザー光脱 離過程の研究	"	
北大 (触媒研) 教 授	市川勝	4/1~9/30 上記期間中 (7泊8日・1回)	有機金属錯体を利用する 表面修飾	田中	
北大 (触媒研) 助 手	福岡淳	6/3~6/10	"	"	
千葉大 (工) 助教授	上松敬禱	4/1~9/30 上記期間中 (月2日)	EELSによる固体表面 の吸着状態に関する研究	"	
岡山大 (自然科学) 助 手	黒田泰重	7/10~7/16	酸化亜鉛表面における水 の二次元凝縮	"	
東北大 (工) 教 授	平野賢一	6/19~6/21	アトム・プローブ・フィ ールド・イオン顕微鏡に よる合金相変態初期過程 の研究	櫻井	
東北大 (工) 助教授	西敏夫	4/1~9/30 上記期間中 (週1回)	電界イオン顕微鏡、アト ム=プローブ、走査型ト ンネル顕微鏡による高分 子の微視的研究	"	
東北大 (工) 助 手	田中肇	"	"	"	
東北大 (工) 助教授	河津璋	4/1~9/30 上記期間中 (週1日)	分子回折法、走査型ト ンネル顕微鏡法による表面 研究	"	

## 施設利用(一般)

所属	氏名	研究期間	研究題目	関係員	備考
東大 (工) 講師	前田 康二	4/1~9/30 上記期間中 (週2日)	STMを利用した結晶欠陥の研究	櫻井	本 講 師
静岡大 (工) 助教授	山口 豪	4/1~9/30 上記期間中 (1泊2日・4回)	走査トンネル顕微鏡による半導体表面の再構成構造	"	町 等 等
静岡大 (電子工学研) 助教授	石川 賢司	5/16~5/21 9/5~9/10	"	"	本 講 師
静岡大 (電子工学研) 助教授	宮尾 正大	"	"	"	立 市 等 等
静岡大 (電子工学研) 助手	村上 健司	4/18~4/23 5/16~5/21 9/5~9/10	"	"	部 工 等
豊橋技科大 助教授	西垣 敏	6/20~6/24 9/19~9/22	MDSによる吸着表面電子状態の研究	"	本 講 師
豊橋技科大 前期課程1年	松田 誠志	"	"	"	本 講 師
長崎 総合科学大 教 授	金 鉉佑	4/1~9/30 上記期間中 (5泊6日・1回)	金属と化合物半導体の界面	"	本 講 師
姫路工大 教 授	野里 僚一	8/28~9/1	Al-Li合金の時効析出に対する第三添加元素の影響のAP-FIM法による研究	"	本 講 師
北大 (理) 助手	和田 信雄	4/1~9/30 上記期間中 (5泊6日・2回)	ゼオライト中 <sup>4</sup> Heの超音波測定	小川	本 講 師
北大 (理) 助手	和田 信雄	5/16~5/21 7/25~7/30	多孔質物質中 <sup>4</sup> He薄膜超流動転移の研究	"	本 講 師

## 施設利用(一般)

所 属	氏 名	研究期間	研 究 題 目	関 係 所	備 考
日本歯科大 (新潟歯学部) 助 手	松 元 和 幸	4/16~4/20 6/11~6/15	固体 <sup>3</sup> He の核磁性に関する現象論的研究	小 川	
名 大 ( 理 ) 後期課程2年	簗 口 友 紀	4/24~4/30 7/25~7/31	<sup>4</sup> He 多重連結膜の超流動転移	久保田	
熊 本 大 ( 理 ) 助 教 授	岡 田 邦 英	7/10~7/20	核スピンの偏極状態における核磁気共鳴	"	
大阪市立大 ( 理 ) 助 教 授	石 井 廣 湖	5/16~5/19	1重項基底状態の金属間化合物での核磁性	"	
東 海 大 ( 工 ) 教 授	飯 田 昌 盛	4/1~9/30 上記期間中 (週 1 日)	超低温自動磁気冷凍システムの開発に関する研究	"	
北 大 ( 理 ) 教 授	沢 口 悅 郎	4/1~9/30 上記期間中 (7泊8日・1回)	超高压下における六方晶 BaTiO <sub>3</sub> の構造相転移の研究	毛 利	
北 大 ( 理 ) M. C. 1	山 本 泰 三	6/13~6/18	"	"	
北 大 ( 理 ) 助 教 授	中 原 純一郎	5/31~6/4	低温, 高圧下の小型光学測定用セルの開発及び作成	"	
北 大 ( 理 ) 助 手	秋 重 幸 邦	6/6~6/11	超高压下における層状ペロヴスカイト酸化物Sr <sub>x</sub> Nb <sub>2</sub> O <sub>7</sub> の構造相転移	"	
東 北 大 ( 工 ) 教 授	深 道 和 明	4/1~9/30 上記期間中 (3泊4日・4回)	Fe 基アモルファス合金の磁気的性質と圧力効果	"	
東 北 大 ( 金 研 ) 助 手	金 子 武次郎	6/20~6/26	RMn <sub>2</sub> X <sub>2</sub> 化合物の磁気転移点への圧力効果 〔R : 希土類金属 X : Ge, Si〕	"	

## 施設利用(一般)

所 属	氏 名	研究期間	調 研 究 題 目	関 係 所 員	備 考
東北大 (理) 後期課程2年	安井祐之	6/20~6/26	RMn <sub>2</sub> X <sub>2</sub> 化合物の磁気転移点への圧力効果 R: 希土類金属 X: Ge, Si	毛利	
金沢大 (教養部) 助教授	藤下豪司	7/25~7/31	新無機低次元導体における電荷密度波と超伝導の競合	"	
東邦大 (理) 助手	斎藤敏明	4/1~9/30 上記期間中 (10日間)	酸化物超伝導体の合成と高圧効果	"	
北大 (理) 助手	入船徹男	4/6~4/9 8/1~8/6	高温高圧下におけるMgSi-O <sub>3</sub> -CaSiO <sub>3</sub> 系の相平衡	八木	
室蘭工大 (工) 教 授	城谷一民	5/9~5/20	d <sup>8</sup> 錯体を用いた圧力インジケーターの開発	"	
室蘭工大 (工) M. C. 1	稻垣幸雄	"		"	
室蘭工大 (工) M. C. 1	芝重光	4/1~9/30 上記期間中 (11泊12日+2回)	高温、高圧下における黒リン-ヒ素合金のX線回折	"	
千葉大 (理) 教 授	木下肇	4/1~9/30 上記期間中 (週1日)	造岩鉱物の高圧下弾性	"	
東工大 (総合理工) 後期課程2年	平賀隆	4/1~9/30 上記期間中 (週2日)	高圧下に於ける金属錯体の構造及び光物性	"	
金沢大 (理) 助手	赤荻正樹	5/23~5/29	珪酸塩鉱物高圧相の合成	"	
阪大 (基礎工) 助手	浜谷望	5/10~5/15 8/8~8/20	希土類元素の温度-圧力相図の研究	"	

## 施設利用(一般)

所 属	氏 名	研究期間	研 究 題 目	関 係 所	備 考
阪 大 ( 基 础 工 ) 後期課程3年	淵 崎 員 弘	5/10~5/15	希土類元素の温度-圧力相図の研究	八 木	
高 知 大 ( 教 育 ) 助 教 授	川 寄 智 佑	5/9~5/21	ザクロ石と輝石類および カンラン石との高圧力下 での相平衡	"	
国立科学博物館 (理化学研究部) 主任研究官	大 迫 正 弘	4/1~9/30 上記期間中 (週 1 日)	地球深部物質の熱的性質 の研究	"	
気象大学校 教 授	寶 來 歸 一	4/1~9/30 上記期間中 (月 6日)	高温・高圧下に於ける岩 石・鉱物の熱伝導率測定	"	
中 央 大 ( 理 工 ) 教 授	深 井 有	4/1~9/30 上記期間中 (週 2 日)	超高压下における金属 水素化物の合成	"	
東 海 大 ( 工 ) 専 任 講 師	川 島 康	4/1~9/30 上記期間中 (週 2 日)	高温高圧力発生装置内の 温度分布の計算	"	
自 治 医 大 教 授	青 野 修	6/2~6/3 6/30~7/1	膜の諸性質の理論	伊 藤	
東 工 大 ( 理 ) 助 手	大 熊 哲		アモルファス $Si_{1-x}Cr_x$ の 金属非金属転移	森 垣	
横 浜 国 大 ( 工 ) 教 授	栗 田 進	4/1~9/30 上記期間中 (月 2 日)	擬一次元白金錯体の ESR	"	
岐 阜 大 ( 工 ) 助 手	野々村 修 一	7/21~7/23 8/18~8/20	アモルファス半導体超格 子の作製とその構造と電 子状態に関する研究	"	
岐 阜 大 ( 工 ) M. C. 2	服 部 覚	7/21~7/23 8/18~8/20	アモルファス半導体超格 子の作製とその電子スピ ン共鳴と ODMR に関する 研究	"	

## 施設利用(一般)

所 属	氏 名	研究期間	研究題目	関係員	備考
岐阜大 (工) M. C. 2	林 久則	7/21~7/23 8/18~8/20	アモルファス半導体超格子の作製とその光熱偏光分光法に関する研究	森 垣	日興中央 理化系 ラジオ
岐阜大 (工) M. C. 1	太田 益幸	7/21~7/23	アモルファス半導体超格子の作製とその構造に関する研究	"	日興中央 理化系 ラジオ
岐阜大 (工) M. C. 1	伊藤 貴司	4/1~9/30 上記期間中 (2泊3日・4回)	アモルファス半導体超格子の作製と光誘起吸収に関する研究	"	日興中央 理化系 ラジオ
岐阜大 (工) M. C. 1	森下 泰之	7/21~7/23	アモルファス半導体超格子の作製と光ルミネッセンスに関する研究	"	正岡 青木 鶴見
広大 (工) 助教授	松村 英樹	7/11~7/14	触媒 CVD 法によるアモルファス半導体の物性研究	"	土井 黒川 遠藤
東京工業高等専門学校 教 授	津金 祥生	4/1~9/30 上記期間中 (週1日)	アモルファス Si, Ge 系多層膜における輸送現象	"	土井 黒川 遠藤
東京工業高等専門学校 助 教 授	谷田部 喜久雄	4/1~9/30 上記期間中 (週1日)	a-Si 系超格子の光熱偏光分光測定	"	土井 黒川 遠藤
東京都立 科学技術大 助 教 授	藤田 安彦	4/1~9/30 上記期間中 (週1日)	アモルファスシリコンの電子輸送現象	"	土井 黒川 遠藤
法政大 (工) 助 手	浜中 廣見	4/1~9/30 上記期間中 (週1日)	中性子照射した a-Si の構造欠陥の研究	"	土井 黒川 遠藤
青山学院大 (理工) 助 手	塩谷 百合	4/1~9/30 上記期間中 (週1日)	置換型不規則二元合金中の電子状態	竹内	土井 黒川 遠藤
東京理科大 (理) 教 授	津田 惟雄	4/1~9/30 上記期間中 (週1日)	準結晶の電子状態	"	土井 黒川 遠藤

## 施設利用(一般)

所 属	氏 名	研究期間	研 究 題 目	関 係 員 所	備 考
東京理科大 (理) M. C. 1	岩崎弘樹	4/1~9/30 上記期間中 (週5日)	準結晶の電子状態	竹内	
東北大 (金研) 助手	金子武次郎	4/1~9/30 上記期間中 (3泊4日・1回)	ペロブスカイト型マンガ ン化合物の磁性	安岡	
東北学院大 (工) 助教授	鹿又武	6/13~6/16	"	"	
埼玉大 (教育) 助教授	津田俊信	4/1~9/30 上記期間中 (週2日)	酸化物超伝導体のNMR	"	
埼玉大 (理) 助教授	元屋清一郎	4/1~9/30 上記期間中 (週1日)	核磁気共鳴による準結晶 の研究	"	
埼玉大 (理) M. C. 1	藤巻浩和	"	"	"	
千葉大 (理) 助手	伊藤正行	4/1~9/30 上記期間中 (週1日)	酸化物伝導体のNMR	"	
阪大 (基礎工) 助手	那須三郎	5/9~5/14 7/18~7/23	鉄中格子間不純物の電子 状態	"	
阪大 (基礎工) M. C. 2	伊藤伸器	"	"	"	
福井大 (工) 助手	吉村一良	5/23~5/30	金属局在モーメント強磁 性体 $RAI_2$ の核磁気緩和	"	
福井大 (工) M. C. 1	横山博之	"	"	"	

## 施設利用(一般)

所 属	氏 名	研究期間	調 研 究 題 目	関 係 員	備 考
電 総 研 研 究 員	鈴 木 義 茂	4/1~9/30 上記期間中 (週 1 日)	機能性人工格子の研究	安 岡	
豊 橋 技 科 大 助 教 授	太 田 昭 男	5/11~5/12 7/12~7/15	酸化物高温超伝導体の超 伝導と磁性に及ぼす合金 化の影響	石 川	
豊 橙 技 科 大 M. C. 1	佐々木 義 宣	"	"	"	
都 立 大 ( 理 ) 助 手	汐 崎 郁 代	4/1~9/30 上記期間中 (週 1 日)	高温超伝導物質の電子ス ピン共鳴研究	"	
室 蘭 工 大 ( 工 ) M. C. 1	工 藤 達 也	8/4~8/15	金属-ベンゾキノンジオ キシマート錯体の重水素 置換体の合成	齋 藤	
東 大 ( 工 ) 助 手	岩 佐 義 宏	4/1~9/30 上記期間中 (週 1 日)	電荷及び陽子移動錯体の 物性	"	
日 大 ( 文 理 ) 専 任 講 師	宮 島 清 一	4/1~9/30 上記期間中 (週 1 日)	有機單一成分及び錯体の 相転移	"	
東 大 ( 生 研 ) 教 授	生 駒 俊 明	4/1~9/30 上記期間中 (月 1 日)	半導体極微細構造中の電 気伝導特性に関する研究	家	
東 大 ( 生 研 ) 講 師	平 川 一 彦	"	"	"	
東 大 ( 生 研 ) 助 手	斎 藤 敏 夫	4/1~9/30 上記期間中 (月 2 日)	"	"	
東 大 ( 生 研 ) D. C. 2	平 本 俊 郎	"	"	"	

## 施設利用(一般)

所属	氏名	研究期間	研究題目	関係員	備考
東大 (生研) 教授	榎 裕之	4/1~9/30 上記期間中 (9日間)	極低温、強磁場中の半導 体2次元電子系の電子状 態および電気伝導に関する研究	家	
東大 (生研) 文部技官	松末俊夫	"	"	"	
東大 (生研) 文部技官	野田武司	"	"	"	
東大 (生研) D. C. 1	吉村尚郎	"	"	"	
東大 (生研) M. C. 2	本久順一	"	"	"	
東京学芸大 (教育) 助教授	並河一道	4/1~9/30 上記期間中 (週3日)	原子内殻電子によるX線 の非弾性散乱の研究	高橋 (敏)	
福山大 (教養部) 講師	磯田誠	7/15~7/17	巡回電子磁性体の低温励 起	守谷	
静岡大 (工) 助教授	山口豪	5/26~5/27 8/29~8/30	準結晶におけるクーロン 場の不均一性	菅野	
山口大 (工) 助教授	篠塚雄三	6/8~6/11	電子相関と電子格子相互 作用の競合に関する研究	斯波	
静岡大 (工業短期大学部) 教 授	浅田寿生	9/25~9/26	半導体中不純物の電子状 態の研究	寺倉	
静岡大 (工業短期大学部) 助教授	星野敏春	8/22~8/26	局在軌道理論による半導 体超微粒子の原子構造安 定化機構の研究	"	

## 施設利用(一般)

所属	氏名	研究期間	研究題目	関係員	備考
金材研 総理府技官	小口多美夫	4/1~9/30 上記期間中 (週1日)	高温超伝導体の電子状態	寺倉	
埼玉大 (教養部) 助教授	今田正俊	4/1~9/30 上記期間中 (週1日)	量子系のシミュレーション	高橋 (實)	
明治薬科大 助教授	打波守	4/1~9/30 上記期間中 (週2日)	スピン系及びフェルミオン系のモンテカルロ計算	"	
金沢工業大 助教授	三嶋昭臣	5/16~5/18	超伝導の理論的研究	高田	
東大 (工) 教授	井野博満	4/1~9/30 上記期間中 (月2日)	稀土類金属基急冷合金の磁性	物質開発室	
東大 (生研) 助教授	七尾進	4/1~9/30 上記期間中 (月4日)	準結晶合金の構造解析	"	
東大 (生研) 助手	藤田大介	4/1~9/30 上記期間中 (月4日)	遷移金属单結晶の表面偏析及び初期酸化	"	
お茶の水女子大 (理) 助教授	今野美智子	4/1~9/30 上記期間中 (週1日)	混合原子価化合物を含む高伝導物質の結晶構造の研究	"	
東大 (生研) 教授	生駒俊明	4/1~9/30 上記期間中 (月1日)	III-V族化合物半導体中の稀土類元素の光物性に関する研究	磁気測定	
東大 (生研) 講師	平川一彦	4/1~9/30 上記期間中 (月2日)	"	"	
東大 (生研) D.C.3	趙新為	4/1~9/30 上記期間中 (月1日)	"	"	

## 施設利用(一般)

所 属	氏 名	研究期間	研 究 題 目	関 係 所	備 考
東 大 ( 生 研 ) 教 授	榎 裕 之	4/1~9/30 上記期間中 (9日間)	AIGaAs, InGaAs, In-AlAs 系ヘテロ構造におけるシュブニコフ・ド・ハース振動及び磁気光学特性	磁 気 測 定	
東 大 ( 生 研 ) 文 部 技 官	松 末 俊 夫	"	"	"	
東 大 ( 生 研 ) 文 部 技 官	野 田 武 司	"	"	"	
東 大 ( 生 研 ) D. C. 1	吉 村 尚 郎	"	"	"	
東 大 ( 生 研 ) M. C. 2	本 久 順 一	"	"	"	
信 州 大 ( 理 ) 助 教 授	永 井 寛 之	5/30~6/3	金属間化合物 $R_3Co$ の帶 磁率測定( $R$ = 稀土類元 素)	"	
長 野 工 業 高 等 専 門 学 校 助 教 授	藤 原 勝 幸	6/6~6/10	金属水素化物 $La_{1-x}Y_x$ $Co_5H_y$ の磁化測定	"	
広 大 ( 工 ) 教 授	大 坂 之 雄	4/1~9/30 上記期間中 (1泊2日 : 1回) (2泊3日 : 1回)	有機金属塩溶液から得た 高臨界温度超伝導性薄膜 の帶磁率	"	
広 大 ( 工 ) 助 教 授	井 村 健	"	"	"	
広 大 ( 工 ) 助 手	那 須 弘 行	5/8~5/11	"	"	
広 大 ( 工 ) M. C. 1	蒔 田 聖 吾	5/11~5/14 6/6~6/8	"	"	

## 施設利用(一般)

(午前中) 順序 計算

所属	氏名	研究期間	研究題目	関係員	備考
広大 (工) M. C. 1	井原良和	7/7~7/9	有機金属塩溶液から得た高臨界温度超伝導性薄膜の帶磁率	磁気測定	北 大 電気測定
広大 (工) M. C. 1	加藤武志	5/12~5/14	" "	" "	北 大 電気測定
広大 (工) M. C. 1	西山幸男	5/9~5/11	" "	" "	北 大 電気測定
北大 (工) 助教授	義家敏正	4/15~4/20	微小点欠陥集合体の構造解析	電子顕微鏡	北 大 電気測定
東大 (工) 講師	前田康二	4/1~9/30 上記期間中 (週2日)	半導体中の転位の諸物性	" "	北 大 電気測定
長崎大 (教養部) 教 授	岩永 浩	8/25~8/27	SnO <sub>2</sub> 双晶結晶中の転位の観察	" "	北 大 電気測定
上智大 (理工) 技術職員	田野倉淑子	4/1~9/30 上記期間中 (週2日)*	グラファイト層間化合物のラマン散乱	光学測定	文水の茶 懲罰
信州大 (理) 教 授	勝木渥	6/24~6/25	物性物理学史	外来委	文水の茶 懲罰
日大 (理工) 教 授	西尾成子	4/1~9/30 上記期間中 (週1日)	中間膜" " 年限報	" "	文水の茶 懲罰
日大 (理工) 助手	植松英穂	4/1~9/30 上記期間中 (週1日)	中間膜" " 年限報	" "	文水の茶 懲罰

## 施設利用(中性子)

所 属	氏 名	研究期間	研 究 題 目	関 係 所	備 考
東北大 (選鉱製練研) 教 授	早稲田 嘉夫	4/16~4/21	Ge, Si, P 等を含むランダム系物質の中性子回折	中性子	
東北大 (選鉱製練研) 助 手	松原 英一郎	"	"	"	
東北大 (選鉱製練研) 助 手	杉山 和正	"	"	"	
東北大 (選鉱製練研) M. C. 1	嘉数 修	4/1~9/30 上記期間中 (6泊7日・1回)	"	"	
埼玉大 (理) 助 教 授	元屋 清一郎	4/1~9/30 上記期間中 (5泊6日・2回)	リエントラントスピングラスの中性子散乱	"	
埼玉大 (理) M. C. 1	藤巻 浩和	"	"	"	
お茶の水女子大 (理) 教 授	伊藤 厚子	4/1~9/30 上記期間中 (2泊3日・3回)	濃厚スピングラスの中性子散乱	"	
お茶の水女子大 (人間文化研究所) D. C. 1	有賀 浩子	4/11~4/16	"	"	
お茶の水女子大 (理) M. C. 1	小舞 知子	4/1~9/30 上記期間中 (2泊3日・3回)	"	"	
東工大 (理工) D. C. 1	栗原 敏也	4/1~9/30 上記期間中 (4泊5日・2回)	"	"	
お茶の水女子大 (理) 教 授	池田 宏信	4/18~4/19 4/20~4/22	層状磁性体の秩序形成	"	

### 施設利用(中性子)

所 属	氏 名	研究期間	研究題目	関係員	備 考
お茶の水女子大 ( 理 ) M. C. 1	田 村 知 子	4/18~4/22	層状磁性体の秩序形成	中性子	要 要 要
お茶の水女子大 ( 理 ) 教 授	池 田 宏 信	4/1~9/30 上記期間中 (3泊4日・2回)	酸化物人工格子の中性子 回折	"	學 學 學
京 大 ( 化 研 ) 助 教 授	高 野 幹 夫	"	"	"	
新 潤 大 ( 理 ) 教 授	田 卷 繁	4/1~9/30 上記期間中 (6泊7日・1回)	溶融塩の中性子回折	"	舞 舞 舞
新 潤 大 ( 理 ) M. C. 1	斎 藤 正 敏	"	"	"	舞 舞 舞
新 潤 大 ( 工 ) 助 教 授	原 田 修 治	"	"	"	舞 舞 舞
新 潤 大 ( 理 ) 助 手	樺 田 昭 次	4/1~9/30 上記期間中 (4泊5日・1回)	銅カルコゲナイト化合物 のイオンダイナミックス	"	舞 舞 舞
広 大 ( 総合科学 ) 教 授	藤 井 博 信	4/1~9/30 上記期間中 (11泊12日・1回)	RCO <sub>2</sub> Ge <sub>2</sub> 単結晶の中性 子散乱	"	工 工 工
広 大 ( 生物圏科学 ) D. C. 3	上 床 美 也	4/1~9/30 上記期間中 (11泊12日・2回)	"	"	工 工 工
埼 玉 大 ( 理 ) 助 教 授	元 屋 清一郎	4/1~9/30 上記期間中 (11泊12日・1回)	"	"	工 工 工
山 口 大 ( 理 ) 助 手	繁 岡 透	"	"	"	工 工 工

## 施設利用(中性子)

所 属	氏 名	研究期間	研 究 題 目	関 係 所 員	備 考
九 大 ( 理 ) 助 手	日 高 昌 則	4/1~9/30 上記期間中 (9泊10日・1回)	層状化合物 $ABF_4$ の磁気 ・構造相転移	中性子	
東 邦 大 ( 理 ) 教 授	小 林 速 男	4/1~9/30 上記期間中 (5泊6日・1回)	$(R_1R_2-DCNQI)_2Cu$ ( $R_1, R_2 = CH_3$ , ハロゲン) の磁気構造	"	

## 施設利用(SOR)

所 属	氏 名	研究期間	研 究 題 目	関 係 所 員	備 考
東 大 ( 教 養 ) 助 手	I-1 江 尻 有 郷	7/18~7/23 7/25~7/30	絶縁体イオン結晶の量子 井戸物性	SOR	
東 大 ( 教 養 ) 助 手	中 川 和 道	7/18~7/30	"	"	
東 大 ( 教 養 ) 助 手	那 須 崇 夫	"	"	"	
東 大 ( 工 ) 助 教 授	I-2 内 田 慎 一	4/1~9/30 上記期間中 (週 1 日)	高温超伝導酸化物の電子 状態とその異方性	"	
東 大 ( 工 ) 講 師	田 島 節 子	"	"	"	
東 大 ( 工 ) 助 手	高 木 英 典	"	"	"	
東 大 ( 工 ) D. C. 1	中 山 佳 美	"	"	"	

## 施設利用(SOR)

(SOR) 施設 利用

所 属	氏 名	研究期間	実験研究題目	関係員	備考
東 大 ( 工 ) M. C. 2	佐 藤 寿 志	4/1~9/30 上記期間中 (週 1 日)	高温超伝導酸化物の電子 状態とその異方性	SOR 1 春 山	工 M
東 大 ( 工 ) M. C. 1	中 橋 英 通	"	"	中 橋 英 通	工 M
東京理科大 ( 理 ) 教 授	I - 3 三 須 明	5/9~5/21	ビスマス置換型希土類鉄 ガーネットのピエゾ光反射スペクトル	井 田 共 吉	工 M
東京理科大 ( 理 ) 助 手	小 林 正 明	"	"	小 林 正 明	理 助 手
東京理科大 ( 理 ) D. C. 3	高 橋 忍	"	"	高 橋 忍	理 D. C. 3
東京理科大 ( 理 ) D. C. 3	由 利 正 忠	"	"	由 利 正 忠	理 D. C. 3
東京理科大 ( 理 ) M. C. 2	内 田 和 人	"	"	内 田 和 人	理 M. C. 2
東京理科大 ( 理 ) M. C. 1	杉 本 馨	"	"	杉 本 馨	理 M. C. 1
東京理科大 ( 理 ) M. C. 1	山 口 克 彦	"	"	山 口 克 彦	理 M. C. 1
広 大 ( 工 ) 教 授	I - 4 大 坂 之 雄	7/3~7/15	真空紫外領域反射測定による種々のヘテロエピタキシャル半導体膜の電子状態の研究	大 坂 之 雄	工 M
広 大 ( 工 ) 助 教 授	井 村 健	"	"	井 村 健	工 助 教 授

## 施設利用 (SOR)

所 属	氏 名	研究期間	研 究 題 目	関 係 所	備 考
広 大 ( 工 ) M. C. 1	横 山 春 喜	7/3~7/15	真空紫外領域反射測定による種々のヘテロエピタキシャル半導体膜の電子状態の研究	SOR	
広 大 ( 工 ) M. C. 1	岡 本 雅 樹	"	"	"	
広 大 ( 工 ) M. C. 1	浜 田 勉	4/1~9/30 上記期間中 (12泊13日・1回)	"	"	
山 形 大 ( 理 ) 助 手	I - 5 吉 成 武 久	5/15~5/30	低次元性イオン結晶の反射スペクトル測定	"	
東 北 大 ( 理 ) 助 手	難 波 孝 夫	5/16~5/28	"	"	
京 大 ( 原 子 炉 ) 助 手	松 山 奉 史	5/23~5/28	"	"	
大阪女子大 講 師	島 貫 重 孝	5/16~5/25	"	"	
東 北 大 ( 工 ) 助 教 授	I - 6 近 藤 泰 洋	6/6~6/18	イオン結晶中の浅い内殻励起後の無輻射遷移	"	
東 北 大 ( 工 ) M. C. 1	神 田 裕 之	"	"	"	
東 北 大 ( 工 ) M. C. 1	保 科 修 司	"	"	"	
東 北 大 (科学計測研) 助 手	柳 原 美 広	"	"	"	

## 施設利用 (SOR)

所 属	氏 名	研究期間	研究題目	関係員	備考
大阪府立大 (工) 教 授	II-1 塙 賢二郎	6/10~6/12	Li ハライドの内殻励起子の緩和過程を伴う decay および NaCl の表面の状態の研究	SOR	資 準 大 音 道 大 電 気 大 機 械 大 電 气 大 機 械 大
大阪府立大 (工) 助 教 授	会 田 修	6/5~6/12	"	"	原 田 大 電 气 大 機 械 大
大阪府立大 (工) 講 師	市 川 公 一	6/5~6/12 6/16~6/27	"	"	高 村 大 電 气 大 機 械 大
大阪府立大 (工) 助 手	鎌 田 雅 夫	6/7~6/16	"	"	東 京 大 電 气 大 機 械 大
大阪府立大 (工) 助 手	奥 沢 誠	6/7~6/16 6/23~6/27	"	"	東 京 大 電 气 大 機 械 大
岡 山 大 (理) 教 授	II-2 岩 見 基 弘	5/9~5/21	光電子分光法による半導体-金属界面合金化初期過程の研究	"	東 京 大 電 气 大 機 械 大
岡 山 大 (理) 助 教 授	日 下 征 彦	"	"	"	大 学 大 電 气 大 機 械 大
岡 山 大 (理) 助 手	平 井 正 明	"	"	"	大 学 大 電 气 大 機 械 大
筑 波 大 (物質工学系) 助 教 授	II-5 大 貫 悅 陸	5/23~5/28 5/30~6/4	URu <sub>2</sub> Si <sub>2</sub> および UCu <sub>5</sub> の光電子分光	"	建 立 大 電 气 大 機 械 大
筑 波 大 (物質工学系) 教 授	小 松 原 武 美	5/23~5/28	"	"	計 算 大 電 气 大 機 械 大
大阪教育大 (教 育) 教 授	V-1 稲 垣 卓	7/17~7/31	薄膜焦電素子を用いた真空紫外域光音響測定法の開発	"	大 学 大 電 气 大 機 械 大

## 施設利用(SOR)

所 属	氏 名	研究期間	研 究 題 目	関 係 所	備 考
大阪教育大 ( 教育 ) 助 教 授	萩 原 武 士	7/17~7/31	薄膜焦電素子を用いた真 空紫外域光音響測定法の 開発	SOR	
東 大 ( 教 養 ) 教 授	伊 藤 隆	7/18~7/30	"	"	
東 海 大 ( 医 ) D. C. 3	古 沢 佳 也	"	"	"	
東 大 ( 教 養 ) 教 授	V - 2 伊 藤 隆	5/9~7/16	真空紫外線(>50nm)に よる生体分子損傷の研究	"	
東 大 ( 農 ) 教 授	山 口 彦 之	"	"	"	
東 大 ( 農 ) 助 手	多々良 敦	"	"	"	
立 教 大 ( 理 ) 教 授	檜 枝 光太郎	"	"	"	
立 教 大 ( 理 ) 後期課程2年	斎 藤 幹 男	"	"	"	
立 教 大 ( 理 ) 前期課程1年	浅 見 彰	7/5~7/16	"	"	
北 大 ( 獣 医 ) 助 教 授	桑 原 幹 典	"	"	"	
金 沢 大 ( 薬 ) 教 授	二階堂 修	6/20~6/24	"	"	

## 施設利用 (SOR)

所 属	氏 名	研究期間	研究題目	関係員	備 考
金沢大 (薬) 文部技官	松永 司	6/20~6/24	真空紫外線(>50nm)による生体分子損傷の研究	SOR	
基礎生物学研 助 手	渡辺 正勝	6/6~6/8	"	"	
高エネ研 助 教 授	小林 克己	5/16~5/18 6/20~6/22	"	"	
国立がんセンター 研究 所 室 長	宗像 信生	5/9~7/16	"	"	
大阪府立放射線 中央研究所 主任研究員	恵 恒 雄	5/16~5/20 7/4~7/8	"	"	
東海大 (医) 講 師	前沢 博	5/9~7/16	"	"	
東海大 (医) D.C. 3	古沢 佳也	"	"	"	
国際基督教大 講 師	高倉 かほる	"	"	"	

Technical Report of ISSP 新刊リスト

Ser. A

- No. 1900 Effect of Heat Treatment on the Low-Temperature NQR Spectrum of  $^{139}\text{La}$  in Single Crystals and Polycrystals of the Antiferromagnetic  $\text{La}_2\text{CuO}_4$ . by Hironori Nishihara, Nobuyuki Sugii, Yoshikazu Hidaka, Migaku Oda, Tadashi Shimizu, Hiroshi Yasuoka, Keiichi Koga, Kohji Kishio, Koichi Kitazawa, Kazuo Fueki, Minoru Suzuki, Toshiaki Murakami and Tsukio Ohtani.
- No. 1901 Anomalous Temperature Dependence of  $^{139}\text{La}$  Nuclear Spin-Lattice Relaxation in  $\text{La}_2\text{CuO}_{4-\delta}$  and  $(\text{La}_{0.9}\text{Ca}_{0.1})_2\text{CuO}_{4-\delta}$ . by Susumu Susaki, Hiroshi Yasuoka, Tadashi Shimizu, Hironori Nishihara, Toshinobu Tsuda, Nobuyuki Sugii, Shinsaku Kambe, Kohji Kishio, Koichi Kitazawa and Kazuo Fueki.
- No. 1902 Activated Dissociative Adsorption of  $\text{N}_2^+$  on Ni(100) and Ni(111). by Housei Akazawa and Yoshitada Murata.
- No. 1903 Detection of Hydrogen Adsorbed on Tungsten Surface Using the  $^1\text{H}(\text{N}^{15}, \alpha \gamma)^{12}\text{C}$  Reaction. by Yasushi Iwata, Fuminori Fujimoto, Eugeni Vilalta, Akio Ootsuka, Ken-ichiro Komaki, Koichi Kobayashi, Hiroshi Yamashita and Yoshitada Murata.
- No. 1904 Atom-Probe Field Ion Microscopy and Its Applications (Review). Part I. by Toshio Sakurai, Akira Sakai and Howard W. Pickering.
- No. 1905 Atom-Probe Field Ion Microscopy and Its Applications (Review). Part II. by Toshio Sakurai, Akira Sakai and Howard W. Pickering.
- No. 1906 Magnetophonon Resonance in Micron-Size  $n^+n^-n^+$  InP Structures in High Magnetic Fields up to 40 T.

- No. 1907 Specific Heat Study on Samples of  $Ba_2Cu_3O_7$  with a Double Superconducting Transition. by M. Ishikawa, Y. Nakazawa, T. Takabatake, A. Kishi, R. Kato and A. Maesono.
- No. 1908 Characterization of High Tc Phase and Its Metamorphic Phases in  $Ba_2RCu_3O_{7-\delta}$  ( $R = Y, Gd, Dy, Ho, Er$  and  $Tm$ ). by Masayasu Ishikawa, Toshiro Takabatake and Yasuhiro Nakazawa.
- No. 1909 Nature of Trapped Hole Centres (A Centres) in a-Si:H: Investigation by Optically Detected Magnetic Resonance and Photoinduced Absorption Measurements on a-Si:H/a-Si<sub>1-x</sub>N<sub>x</sub>:H Superlattices. by Hiroshi Ohta, Masaaki Yamaguchi, Chisato Ogihara and Kazuo Morigaki.
- No. 1910 Peculiar Critical Field Behaviour in the Recently Discovered Ambient Pressure Organic Superconductor  $(BEDT-TTF)_2Cu(NCS)_2$  ( $T_{c1} = 10.4K$ ). by Kokichi Oshima, Hatsumi Urayama, Hideki Yamochi and Gunzi Saito.
- No. 1911 Lattice Strain of Hexagonal  $BaTiO_3$  under Hydrostatic Pressures. by Yukikuni Akishige, Masakazu Kobayashi, Hiroki Takahashi, Nobuo Mori and Etsuro Sawaguchi.
- No. 1912 Formation of Single Domain Carbide Layer on a Ni (111) Surface. by Xie Maosong, Taro Yamada, Iwao Matsuo, Hideki Hirano and Kenichi Tanaka.
- No. 1913 Effect of Nonmagnetic Impurities of Al, Mo and Zn on the Superconductivity of  $Ba_2Cu_3O_7$ . by Toshiro Takabatake and Masayasu Ishikawa.
- No. 1914 Dynamical Analysis on the Longitudinal Motion of Trapped Ions in an Electron Storage Ring. by Yoshikazu Miyahara, Ken Takayama and Gen'ichi Horikoshi.

No. 1915 Holon Kinetic Energy in the RVB State. by Pascal Ledeler and Yoshi-nori Takahashi.

No. 1916 Evidence for Superconductivity in  $\text{YBa}_2\text{Cu}_3\text{O}_{7-\delta}$  in Megagauss Fields.  
by Koichi Nakao, Noboru Miura, Kiyoshi Tatsuhara, Shin-ichi Uchida, Hidenori Takagi, Takahiro Wada and Shoji Tanaka.

No. 1917 Effect of Magnetic Field and Pressure on Superconductivity of New High  $T_c$  Oxide  $\text{Bi-Sr-Ca-Cu-O}$ . by Takehiko Matsumoto, Haruyoshi Aoki, Akiyuki Matsushita, Mitsuru Uehara, Nobuo Mōri, Hiroki Takahashi, Chizuko Murayama and Hiroshi Maeda.

No. 1918 A Simple Method for Attaching Electrical Leads to Small Samples of High  $T_c$  Oxides. by Yasuhiro Iye, Tsuyoshi Tamegai, Hiroyuki Takeya and Humihiko Takei.

No. 1919 Transport Properties of Single Crystal  $\text{YBa}_2\text{Cu}_3\text{O}_{7-\delta}$ . by Yasuhiro Iye, Tsuyoshi Tamegai, Hiroyuki Takeya and Humihiko Takei.

No. 1920 Variational Monte-Carlo Studies of Superconductivity in Strongly Correlated Electron Systems. by Hiroyuki Shiba and Hisatoshi Yokoyama.

No. 1921 Site Assignment for Cu NQR Lines in  $\text{YBa}_2\text{Cu}_3\text{O}_{7-\delta}$  Superconductor.  
by Tadashi Shimizu, Hiroshi Yasuoka, Takashi Imai, Toshinobu Tsuda, Toshiro Takabatake, Yasuhiro Nakazawa and Masayasu Ishikawa.

No. 1922 The Absence of the Two-Dimensional Short Range Spin Correlation in a Superconductive Sr-doped  $\text{La}_{1.92}\text{Sr}_{0.08}\text{CuO}_{4-\delta}$ . by Hideki Yoshizawa, Setsuo Mitsuda, Kunihiko Oka, Hideaki Kitazawa, Shoichi Hosoya and Tsuyoshi Kajitani.

No. 1923 Variational Theory for the Orbital Degenerate Periodic Anderson Model. by Takashi Yanagisawa.

- No. 1924 The Effect of Zero - Point Spin Wave Motions on the Hole Propagation in the Strongly Correlated Hubbard Model. by Yoshinori Takahashi.
- No. 1925 Anomalous NMR Relaxation in Organic Superconductor (BEDT-TTF)<sub>2</sub>Cu(NCS)<sub>2</sub>. Toshihiro Takahashi, Toru Tokiwa, Kazushi Kanoda, Hatsumi Urayama, Hideki Yamochi and Gunzi Saito.
- No. 1926 Atom - Probe Analysis of  $\gamma$  - Iron Precipitates in a Cu - 1.2at%Fe Alloy. by Kazuhiro Hono, Howard W. Pickering and Toshio Sakurai.
- No. 1927 Successive Magnetic Phase Transitions in Tetragonal  $YBa_2Cu_3O_{6+x}$ . by H. Kadowaki, M. Nishi, Y. Yamada, H. Takeya, H. Takei, S. M. Shapiro and G. Shirane.
- No. 1928 High Field Magnetization of 3d Transition Metal Intercalates  $M_xTiS_2$  ( $M = 3d$  Metals). by H. Negishi, M. Koyano, M. Inoue, T. Sakakibara and T. Goto.
- No. 1929 Magnetic Contribution to the Bulk Modulus of 3d Transition Metals and Alloys. by Nobuo Mori.
- No. 1930 Holes in Two - Dimensional CuO<sub>2</sub> System - Pairing Mechanism Emerging from Small - Cluster Studies -. by Masao Ogata and Hiroyuki Shiba.
- No. 1931 Study on the Si(111) $\sqrt{3}$  x  $\sqrt{3}$  - Ag Surface Structure by X - ray Diffraction. by Toshio Takahashi, Shinichiro Nakatani, Naoko Okamoto, Tetsuya Ishikawa and Seishi Kikuta.
- No. 1932 Resonant - Photoemission Study for the Mechanism of Room - Temperature - Alloyed Interface Formation of Metal(Au, Ag) - Si(111) - (2x1). by Motohiro Iwami, Masakazu Kubota, Tadashi Koyama, Hiroshi Tochihara and Yoshitada Murata.

No. 1933 High-Pressure and High-Temperature Phase Relations in  $\text{CaSiO}_3$  and  $\text{CaMgSi}_2\text{O}_6$ , and Elasticity of Perovskite-type  $\text{CaSiO}_3$ . by Hiroshi Tamai and Takehiko Yagi.

No. 1934 Finite-Temperature Band Theory of Ferromagnetic/Antiferromagnetic Interfaces, by Hideo Hasegawa and Frank Herman.

No. 1935 Spin Wave in  ${}^3\text{He}-{}^4\text{He}$  Solution. by Hidehiko Ishimoto, Hiroshi Fukuyama, Tuneo Fukuda, Teturo Tazaki and Shinji Ogawa.

Activity Report of Synchrotron Radiation Laboratory 1987. by the Institute for Solid State Physics, The University of Tokyo.

## 昭和63年度 後期共同利用の公募について

1. 公募事項（別添要項参照）
  - (1) 外来研究員（昭和63年10月～昭和64年3月実施分）
  - (2) 短期研究会（昭和63年10月～昭和64年3月実施分）
2. 申請資格：国、公、私立大学及び國、公立研究機関の教官、研究者並びこれに準ずる者。
3. 申請方法：(1) 一般の外来研究員については、外来研究員申請書を提出のこと。  
(2) 軌道放射物性研究施設の共同利用については、申請方法が異なるので7ページを参照のうえ、申請のこと。
4. 申請期限：昭和63年6月30日（木）厳守
5. 申し込み先：〒106 東京都港区六本木7丁目22番1号  
東京大学物性研究所 共同利用掛  
電話 (03)478-6811内線5031,5032
6. 審査：研究課題の採否、所要経費の査定等は共同利用施設専門委員会において行い、教授会で決定する。
7. 採否の判定：昭和63年9月下旬
8. 研究報告：共同利用研究（共同利用及び留学研究員）については1期（半年）ごとに実施報告書（所定の様式による）を提出のこと。また、共同利用研究によって得た成果の論文の別刷2部を共同利用掛あて提出のこと。
9. 宿泊施設：(1) 東京大学物性研究所共同利用研究員宿泊施設が利用できる。  
(2) 軌道放射物性研究所施設の共同利用については、東京大学原子核研究所共同利用研究員宿泊施設が利用できる。  
(3) 東海村日本原子力研究所の共同利用については、東京大学共同利用研究員宿舎が利用できる。
10. 学生教育研究災害傷害保険の加入：大学院学生は昭和51年4月に創設された『学生教育研究災害傷害保険』に加入されるようご配慮願いたい。

## 外 来 研 究 員 に つ い て

物性研究所においては、共同利用研究業務として、全国物性研究者の研究遂行に資するため、下記の各種研究員制度が設けられています。これら研究員の公募は、原則として半年ごとに行っております。

なお、外来研究員制度は個々の申請を検討のうえ実行されておりますが、特別な事情のある場合を除いて、あらかじめ共同利用施設専門委員会の了承を得る建前をとっておりますので、下記ご参照のうえ期日までに応募されるようお願いします。

その他、外来研究員制度の内容あるいは利用する設備等に関してお判りにならないことがあれば外来研究員等委員会委員長 竹内 伸（内線5671）までご連絡ください。

**申請する前に必ず利用される研究室等の教官と打ち合わせのうえ申請書を提出してください。**

申請書用紙が必要な方は共同利用掛（内線5031, 5032）までご請求ください。

### 記

#### 1. 客員研究員

- (1) 所外研究者がやや長期にわたって、本所の施設を利用して研究を行う便宜を提供することを目的としております。
- (2) 資格としては、教授、助教授級の研究歴に相当する研究者を対象とします。
- (3) 申請については、本所所員の申請に基づいて、研究計画等を検討のうえ決定します。
- (4) 研究期間は最低1か月とし、6か月を限度としていますが、延長が必要な時は、その都度申請して更新することができます。
- (5) 研究期間中は、常時本所に滞在することを原則とします。
- (6) 居室の供用方については、本所はできるだけ努力します。

#### 2. 嘱託研究員

- (1) 所外研究者に本所の研究計画及び共同研究計画の遂行上必要な研究を委嘱することを目的としています。

(2) 嘱託研究員の委嘱は、本所所員の申請に基づいて、研究計画等を検討のうえ決定します。

### 3. 留学研究員

(1) 大学、官庁、その他の公的研究機関に在籍する若い研究者に、留学の便宜を提供することを目的とした制度です。

(2) 資格としては、助手ないし大学院博士課程程度の研究歴に相当する方を対象としています。

(3) 研究は所員の指導のもとで行います。大学院学生の場合、原則として指導教官を嘱託研究員に委嘱します。

(4) 東京通勤圏外の機関に所属する者には、本所規定に従って、旅費及び滞在費等が支給されます。

(5) 申請は別紙（様式1）の申請書を提出してください。（必要な方は直接共同利用掛

### 4. 共同利用

(1) 所外研究者が研究の必要上、本所の施設を利用したい場合、その便宜を提供できるようにしております。

(2) 共同利用は「共同研究」と「施設利用」の2つの形態に分けられます。共同研究と施設利用では採択率、充足率が異なる場合があります。

また、共同研究、施設利用それぞれに、1年以内に研究を集中して遂行する「短期集中型」の利用形態を設けます。短期集中型を希望して認められた場合には充足率を高くしますが、その後しばらくの期間、共同利用を見合せていただくことがあります。（“物性研だより” 第28巻第1号（1988年5月）参照）

(3) 共同利用を希望の方は、別紙（様式2）の申請書を提出してください。

## 5. 採否決定

上記各種研究員受入れの可否は、共同利用施設専門委員会において、申請された研究計画、研究歴及び所内諸条件を審査検討し、教授会で決定します。

採択された共同利用研究の中で、放射線施設を利用する方には、昭和57年7月21日から施行された「外来研究員等の放射線管理内規」に従って、別紙（様式6）の「放射線作業従事承認書」を提出していただきます。

## 6. 実施報告書

留学研究員及び共同利用で来所の方には、1期（半年）ごとに終了後30日以内に別紙（共同研究及び短期集中型の施設利用は様式4、一般の施設利用及び留学研究員は様式5）による外来研究員実施報告書を提出していただきます。

## 7. 別刷の提出

外来研究員として来所されて行われた研究に関する論文の別刷2部を必ず共同利用掛に提出してください。また、論文を発表される場合、謝辞の所に東京大学物性研究所の共同利用による旨の文章を入れていただくことを希望します。英文の場合の参考として、次のような例文をあげておきます。

- a) This work was carried out under the Visiting Researcher's Program of the Institute for Solid State Physics, the University of Tokyo.
- b) This work was carried out by the joint research in the Institute for Solid State Physics, the University of Tokyo.
- c) This work was performed using facilities of the Institute for Solid State Physics, the University of Tokyo.

## 8. 経 費

旅費、滞在費及び研究に要する経費は、個々の申請に基づいて共同利用施設専門委員会で査定のうえ、共同利用施設運営費から支出します。

## 9. そ の 他 づりの申請用紙の始め方と申請手順

(1) 予算の支出、諸施設の利用、設備の管理等については、関係する所員の指示に従ってください。

(2) 申請書は、必ず別紙様式のものを使用してください。

## 軌道放射物性研究施設の共同利用について

1.3 GeV 電子シンクロトロン（ES）及び 0.4 GeV電子ストーリジリング（S O R - R I N G）からのシンクロトロン放射を用いる共同利用実験の申込みについてはマシンタイムの調整を行う必要上、物性研共同利用の正式申込みの以前に下記の要領で物性研軌道放射物性研究施設あて申込んでください。

### 記

1. 対象となる実験： ES及びS O R - R I N Gからのシンクロトロン放射を利用する実験。
2. 実験期間：昭和63年10月中旬から昭和64年3月末日までの期間で、利用できるマシンタイムは総計約3か月間。ただし、各ビームラインによって多少異なります。
3. 利用できる設備：
  - (1) S O R - R I N G第1ビームライン  
1 M縦分散瀬谷－波岡型直入射分光器
  - (2) S O R - R I N G第2ビームライン  
2 M縦分散変形ローランド型斜入射分光器、  
角度分解・積分型光電子分光測定装置一式
  - (3) S O R - R I N G第5ビームライン
  - (4) S O R - R I N G第1' ビームライン  
自由ポート

なお、詳細および準備研究的な実験については、申込み前に当施設に御相談ください。

#### 4. 申込み要領

- (1) 希望するビームライン
- (2) 申請研究課題
- (3) 申請代表者及び実験参加者、所属・職・氏名
- (4) 実験期間及び実施希望時期
- (5) 実験の目的・意義及び背景 (1,000字以内でわかりやすく書いてください。)
- (6) 関連分野における申請者のこれまでの業績 (5編以内)
- (7) 実験の方法(800字以内、危険物や超高真空系を汚染する可能性のある物質等を使用する場合は、明示のうえ安全対策の方法を記すこと。)
- (8) 使用装置 (持込み機器も含めて)
- (9) 物性研共同利用施設運営費よりの負担を希望する消耗品の種類と費用の概算

上記項目につき記入した申請書のコピー 8部 (A4 サイズ用紙) を下記申込み先あて  
送付してください。

5. 申込み先: 〒188 東京都田無市緑町3丁目2番1号

東京大学物性研究所軌道放射物性研究施設

電話 (0424) 61-4131 内線 328, 307

(「共同利用申込み」と表記のこと)

6. 申込み期限: 昭和63年6月18日(土) 必着とします。

7. 審査: 上記申込みについて、物性研軌道放射物性研究施設運営委員会において審査し、採用された研究課題についてはその実験計画に従い改めて物性研外来研究員申請書及び放射線作業従事承認書を直接共同利用掛 (〒106 東京都港区六本木7丁目22番1号 東京大学物性研究所) に提出していただきます。

## 短期研究会について

短期研究会は、物性研究上興味深い特定のテーマについて全国の研究者が1～3日間程度研究会を開き、集中的に討議するもので、提案代表者は内容、規模等について関係研究者と十分検討のうえ、申請してください。

### 記

1. 申 請 方 法：代表者は別紙申請書（様式3）を提出してください。
2. 提案理由の説明：提案代表者は、内容、規模等について共同利用施設専門委員会で説明していただきます。
3. 採 否 決 定：共同利用施設専門委員会の審議を経て教授会が決定します。
4. 経 費：共同利用施設専門委員会で査定のうえ、共同利用施設運営費から支出します。
5. 報 告 書：提案代表者は、研究会終了後すみやかに物性研だよりに掲載する研究会報告書を提出してください。執筆に関する要領は別にお知らせします。

## 共同利用施設専門委員会委員

菅 宏	阪 大 (理)	森 川 陽	東工大 (工)
好 村 滋 洋	広島大 (総合科学)	朝 山 邦 輔	阪 大 (基礎工)
壽榮松 宏 仁	東 大 (理)	石 館 健 男	静岡大 (理)
長 岡 洋 介	名 大 (理)	井 上 正	広島大 (理)
長 坂 慎一郎	山形大 (理)	小 林 俊 一	東 大 (理)
永 田 一 清	東工大 (理)	白 鳥 紀 一	阪 大 (理)
平 井 章	京 大 (理)	恒 藤 敏 彦	京 大 (理)
藤 田 敏 三	広島大 (理)	三 輪 浩	信州大 (教養)
都 福 仁	北 大 (理)	佐 藤 繁	高エネルギー研
菊 田 惺 志	東 大 (工)	吉 原 経太郎	分子科学研究所
赤 岩 英 夫	群馬大 (工)	その他物性研所員	

様式 1

外来研究員(留学研究員)申請書

No.

昭和 年 月 日

東京大学物性研究所長 殿

所 属 \_\_\_\_\_

職名又は学年 \_\_\_\_\_

ふりがな  
氏 名 \_\_\_\_\_

(印)

級号棒

級

号俸

級号棒発令年月日( 年 月 日 ) \_\_\_\_\_

申請者の連絡先 電話 \_\_\_\_\_

内線 \_\_\_\_\_

下記研究計画により留学研究員として貴所で研究したいので申請します。

研究題目 \_\_\_\_\_

研究目的 \_\_\_\_\_

○研究の実施計画使用装置方法等詳細に。

○研究予定期間 昭和 年 月 日 ~ 昭和 年 月 日

○放射線作業に従事することの有無。 有 • 無 (○で囲むこと)

希望部門 研究室名( 部門 研究室 )

他の研究室、共通実験室への共同利用を同時に申請していますか。 □していない □している  
申請している場合の研究室、共通実験室名( )

\* 採択された共同利用研究の中で、放射線施設を利用される方には、昭和57年7月21日から施行された「外来研究員等の放射線管理内規」にしたがって、「放射線作業従事承認書」(様式6)を提出していただきます。

<p>① 宿泊を必要としない申請者(日帰り)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">月　　日～</td> <td style="width: 33%;">月　　日</td> <td style="width: 33%;">週　　日</td> </tr> <tr> <td>月　　日～</td> <td>月　　日</td> <td>週　　日</td> </tr> <tr> <td>月　　日～</td> <td>月　　日</td> <td>週　　日</td> </tr> </table>												月　　日～	月　　日	週　　日	月　　日～	月　　日	週　　日	月　　日～	月　　日	週　　日			
月　　日～	月　　日	週　　日																					
月　　日～	月　　日	週　　日																					
月　　日～	月　　日	週　　日																					
<p>② 宿泊を必要とする申請者(研究所の宿泊施設を利用する場合)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">月　　日～</td> <td style="width: 33%;">月　　日(泊　日)</td> <td style="width: 33%;">月　　日～</td> <td style="width: 33%;">月　　日(泊　日)</td> </tr> <tr> <td>月　　日～</td> <td>月　　日(泊　日)</td> <td>月　　日～</td> <td>月　　日(泊　日)</td> </tr> <tr> <td>月　　日～</td> <td>月　　日(泊　日)</td> <td>月　　日～</td> <td>月　　日(泊　日)</td> </tr> </table> <p><input type="checkbox"/> 物性研宿泊施設    <input type="checkbox"/> 原子核研宿泊施設    <input type="checkbox"/> 東海村原研宿泊施設</p>												月　　日～	月　　日(泊　日)										
月　　日～	月　　日(泊　日)	月　　日～	月　　日(泊　日)																				
月　　日～	月　　日(泊　日)	月　　日～	月　　日(泊　日)																				
月　　日～	月　　日(泊　日)	月　　日～	月　　日(泊　日)																				
<p>③ 所外に宿泊をする申請者</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">月　　日～</td> <td style="width: 33%;">月　　日(泊　日)</td> <td style="width: 33%;">月　　日～</td> <td style="width: 33%;">月　　日(泊　日)</td> </tr> <tr> <td>月　　日～</td> <td>月　　日(泊　日)</td> <td>月　　日～</td> <td>月　　日(泊　日)</td> </tr> </table> <p>* 所外に宿泊の場合どこを利用されますか。</p> <p><input type="checkbox"/> 自宅    <input type="checkbox"/> 親元    <input type="checkbox"/> 親戚の家    <input type="checkbox"/> 旅館</p>												月　　日～	月　　日(泊　日)										
月　　日～	月　　日(泊　日)	月　　日～	月　　日(泊　日)																				
月　　日～	月　　日(泊　日)	月　　日～	月　　日(泊　日)																				
<p>④ この出張の際、貴所属機関から、鉄道賃、日当、宿泊料が支給されますか。</p> <p><input type="checkbox"/> される    <input type="checkbox"/> されない</p>																							
<p>利用頻度： ①新規    ② 過去5年間何回位利用していますか。( ) 回</p>																							
<p>略歴</p>																							
<p>○大学院学生は学歴を記入のこと。</p>																							
<p>上記のとおり、申請者が貴研究所において研究に従事することを承諾します。</p>																							
<p>昭和 年 月 日</p>																							
<p>申請者の所属長職・氏名</p>																							

様式 2

外来研究員(共同利用)申請書

No.

昭和 年 月 日

東京大学物性研究所長 殿

所 属 \_\_\_\_\_

職 名 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

印

級号棒

級

号俸

級号棒発令年月日( 年 月 日 ) \_\_\_\_\_

申請者の連絡先 電話 \_\_\_\_\_

内線 \_\_\_\_\_

下記研究計画により外来研究員として貴所で研究したいので申請します。

研究題目 \_\_\_\_\_

研究目的 \_\_\_\_\_

○研究の実施計画使用装置方法等詳細に。グループで研究される場合は代表者が記入のこと。

○短期集中型を希望する場合、期間(原則として1年以内)を明記してください。

昭和 年 月 日 ~ 昭和 年 月 日

○共同研究・施設利用を希望する。(○で囲むこと)

○放射線作業に従事することの有無。 有 • 無 (○で囲むこと)

希望部門 研究室名(

部門

研究室)

他の研究室、共通実験室への共同利用を同時に申請していますか。 していない している  
申請している場合の研究室、共通実験室名( )

※ 採択された共同利用研究の中で、放射線施設を利用される方には、昭和 57 年 7 月 21 日から施行された「外来研究員等の放射線管理内規」にしたがって、「放射線作業従事承認書」( 様式 6 ) を提出していただきます。

① 宿泊を必要としない申請者(日帰り)

月　　日～月　　日	週	月　　日～月　　日	週	月　　日～月　　日	週
月　　日～月　　日	週	月　　日～月　　日	週	月　　日～月　　日	週
月　　日～月　　日	週	月　　日～月　　日	週	月　　日～月　　日	週

② 宿泊を必要とする申請者(研究所の宿泊施設を利用する場合)

月　　日～月　　日(泊　日)	月　　日～月　　日(泊　日)	月　　日～月　　日(泊　日)
月　　日～月　　日(泊　日)	月　　日～月　　日(泊　日)	月　　日～月　　日(泊　日)
月　　日～月　　日(泊　日)	月　　日～月　　日(泊　日)	月　　日～月　　日(泊　日)

物性研宿泊施設     原子核研宿泊施設     東海村原研宿泊施設

③ 所外に宿泊をする申請者

月　　日～月　　日(泊　日)	月　　日～月　　日(泊　日)	月　　日～月　　日(泊　日)
月　　日～月　　日(泊　日)	月　　日～月　　日(泊　日)	月　　日～月　　日(泊　日)

※ 所外に宿泊の場合どこを利用されますか。

自宅     親元     親戚の家     旅館

④ この出張の際、貴所属機関から、鉄道賃、日当、宿泊料が支給されますか。

される     されない

利用頻度： ①新規    ②過去 5 年間何回位利用していますか。( )

略歴

○大学院学生は学歴を記入のこと。

上記のとおり、申請者が貴研究所において研究に従事することを承諾します。

昭和　　年　　月　　日

申請者の所属長職・氏名

(印)

## 短 期 研 究 会 申 請 書

昭和 年 月 日

東京大学物性研究所長 殿

提案代表者所属職名

氏 名

印

連絡先 電 話

内 線

下記のとおり短期研究会の開催を提案したいので申請します。

記

1. 研究会の名称

2. 提案理由

理由書は、400字以上600字まで（B5版横書き）とし、提案理由及び研究会内容がよくわかるように記載してください。

特に物性研で開催することの必要性や意義を明記してください。

3. 開催期間

月 日 ～ 月 日 ( 日間)

開始時間 \_\_\_\_\_ :

4. 参加予定者数 約 名

5. 希望事項 (○で囲む)

予稿集 : 有 · 無

その他希望事項

公開 · 非公開

6. その他(代表者以外の提案者)

所属機関記入のこと

---

---

---

---

---

---

---

---

## 7. 旅費の支給を必要とする者

各項審査手帳

	姓 氏 名	所 属	職 名
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			

8. その他主要参加者

	氏 名	所 属	職 名
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			

様式 4

昭和 年 月 日

外來研究員 共 同 研 究 実施報告書  
施設利用(短期集中型)

東京大学物性研究所長 殿

東京大学物性研究所長 殿

所 属

職 名

氏 名

⑪

下記のとおり貴研究所の施設を利用しましたので、報告します。

## 備 記

① 研究題目

② 利用期間

自 昭和 年 月 日  
至 昭和 年 月 日

③ 利用研究室または

共通実験室名

④ 共同研究者氏名及び所属職名

氏 名	職 名	所 属 名	備 考

⑤ 研究実施経過(利用機器、利用手段方法、成果、約1,000字(B5版横書き))

⑥ 成果の公表の方法(投稿予定の論文のタイトル、雑誌名など。短期集中型の場合は終了時のみ)

## 注 意

- (1) グループ研究の場合は、代表者が記入のこと。
- (2) 各期終了後30日以内に提出すること。

様式 5

昭和 年 月 日

外來研究員 施設利用 実施報告書  
留学研究員

東京大学物性研究所長 殿

所 属

職 名

氏 名

印

下記のとおり貴研究所の施設を利用しましたので、報告します。

記

① 研究題目

② 利用期間              自 昭和 年 月 日

                          至 昭和 年 月 日

③ 利用研究室または

共通実験室名 \_\_\_\_\_

④ 共同研究者氏名及び所属職名

氏名	職名	所屬名	備考

⑤ 研究実施経過（利用機器、利用手段方法、成果、約400字（B5版横書き））

注 意

- (1) グループ研究の場合は、代表者が記入のこと。
- (2) 各期終了後30日以内に提出すること。

## 物性研究所に来所する外来研究員等の放射線 管理について

本研究所における放射線障害予防規程は、さる昭和41年4月20日に制定されたが、所内における従来の規程の適用が必ずしも現状にそぐわなくなった実情にかんがみ、昭和57年3月24日に改正を行い、現在にいたっている。この規程の適用にあたり第27条に外来研究員等の安全管理については別に定めることと規定されているため、次のような外来研究員等の放射線管理内規を制定し、昭和57年10月1日以降本研究所に来所する外来研究員に対し適用することとなった。なお、この内規の本旨は、本研究所の放射線施設を利用する外来研究員等に対し、その所属する機関において、その管理の責任を持つものとされ、これに関する了解事項及び放射線作業従事承認書もあわせて紹介する。

### 外来研究員等の放射線管理内規

放射線障害予防規程第27号に定める外来研究員等の放射線管理については以下のとおりとする。

#### 1. 六本木地区

- (1) 物性研究所放射線管理室（以下「管理室」という。）は、外来研究員等の共同利用申込が承認された時に、その所属する大学又は事業所に対し「物性研究所の放射線施設を利用する外来研究員等の派遣についての了解事項」及び「放射線作業従事承認書」を送付する。
- (2) 外来研究員等は、放射線取扱に先立って「放射線作業従事承認書」を管理室に提出するものとする。
- (3) 本所の放射線施設及び放射線発生装置等を初めて利用する外来研究員等に対し、当該施設の放射線管理責任者は、放射線取扱の開始前に放射線発生装置あるいは放射線物質等の安全取扱、立入記録の記入等についての教育訓練を実施する。
- (4) 放射線管理責任者は、外来研究員等について、フィルムバッジ等の着用の有無を確認し、それらを持たない場合は、個人被曝線量計を貸与し被曝線量を記録するものと

とする。

2. 日本原子力研究所内（東海村）－中性子回折実験装置

中性子回折実験装置等を利用する外来研究員等は、日本原子力研究所で定める放射線管理上の所要手続きをしなければならない。

3. 東大原子核研究所内（田無市）－軌道放射物性研究施設

軌道放射物性研究施設を利用する外来研究員等の放射線管理については、「軌道放射物性研究施設に係る覚書」によって行う。

附 則

この内規は、昭和57年7月21日から施行する。

### 物性研究所の放射線施設を利用する外来研究員等 の派遣についての了解事項

1. 外来研究員等及び所属機関の責任者は、物性研究所の放射線施設の利用に際して、以下の事項を承諾するものとする。
  2. 外来研究員等は、本所放射線障害予防規程及び当該放射線施設の管理内規に従う。
  3. 外来研究員等が利用する放射線施設等に係る管理責任（放射線発生装置、放射性物質の安全取扱、管理区域等の放射線量率の測定等の管理）は、物性研究所にあるが、「放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律」等で定める放射線作業従事者としての認可及び個人管理は、外来研究員等の所属機関の責任において行う。

放射線作業従事者としての認可及び個人管理とは、

- (1) 教育訓練（物性研究所における放射線発生装置等の安全取扱に係る教育訓練は除く）の受講。
  - (2) 血液検査などの健康管理。
  - (3) 個人被曝線量測定。
  - (4) 放射線作業に従事することの可否の判定。
4. 放射線作業に従事する外来研究員等は、所属機関の放射線取扱主任者及び管理責任者が認める放射線作業従事承認書を、物性研究所放射線管理室に提出する。

5. 個人被曝線量計（フィルムバッジ等）は、原則として所属機関より持参し、着装して放射線作業に従事するものとする。

ただし、個人被曝線量計のない場合は、当該施設又は放射線管理室が貸与する。

## 樣式 6

昭和 年 月 日

# 放 射 線 作 業 徒 事 承 認 書

東京大学物性研究所長 殿

機 関 名

所在地

放射線取扱主任者名

三

所属機関代表者名

印

当機関は、「物性研究所の放射線施設を利用する外来研究員等の派遣についての了解事項」を承諾して、下記の者が貴研究所において放射線作業に従事することを承認しましたのでよろしくお願いします。

なお、下記の者については、当機関において放射線障害防止法、あるいは人事院規則（10-5）等の法規に基づいて放射線作業従事者として管理が行われていることを証明します。

記

(注) この承認書の有効期間は 年度末までです。

## 編 集 後 記

今月号には前所員の生嶋先生より、大学と民間研究所間の相違とその人的交流について、広い見地に立った示唆に富む一文をいただきました。昨年創立三十周年をむかえた物性研も、研究所の移転問題を含めて将来計画をどう描くか、所内外で真剣な議論が続いているところです。今回の共同利用システムの改定は、所外の方々が直接物性研と係わる部分の変更です。皆様からの御意見等、「物性研だより」に寄せられることを希望しております。

なお、次号の締切りは6月10日です。

福 山 寛  
三 浦 登

